

2025 年度 学部授業アンケート分析結果

本資料は、2025 年度(春学期・秋学期)に学部学生を対象に行われた授業アンケートにおける「学部共通設問」の回答結果を、学生個人の成績評価や年間 GPA、入学試験区分等と組み合わせて集計・分析を行った結果を記したものです。なお、学生の情報は分析を行う段階からすべてマスキングされ、個人が特定できないものとしています。

中央大学 FD・SD 推進委員会

中央大学教育力研究開発機構

2025年度 学部学生向け授業アンケート分析結果 報告書

2026年6月5日

教育力研究開発機構 専任研究員／国際経営学部 特任助教

佐々木 孝輔

1. はじめに

本報告は、2026年4月までにFD・SD推進委員会事務局より提供いただいた、学部学生を対象にした授業アンケート（以下、「授業アンケート」と言います）の結果ならびに学生の成績情報を分析した結果のサマリーです。授業アンケートは、2025年度春学期および秋学期に実施された講義を受講した学生を対象に実施されました。また、本授業アンケートは各学期、学生の成績確定前に行われました。

1.1 分析の観点について

本報告では次の項目について、要素間を比較・分析した結果を報告します。

- 設問1～14の回答に関する、以下の観点
 - 成績上位者／下位者の回答傾向
 - 授業形態別（講義／実験・製図／実習／演習／実技／外国語／卒論科目）の回答傾向
 - 対面授業／オンライン授業を受講した学生の回答傾向
 - 当該授業の履修者数別の回答傾向
 - 受講形態（全て対面／全て遠隔／ハイブリッド）別の回答傾向／成績傾向
 - 授業満足度別の回答傾向／成績傾向
- 以下の分類に基づく自由記述回答
 - 対面（面接）科目／遠隔科目別
 - 授業形態別
 - 履修者数別
 - 受講形態別

1.2 収集したデータについて

収集したデータは以下の通りです。

- 授業ごとに実施した授業アンケートの回答（選択肢の設問全14問および自由記述の設問全4問）
- 授業アンケートを実施した授業に関する以下のメタデータ
 - 授業形態
 - 教授会によって定められた遠隔授業科目であるか否か
 - 当該授業に登録された履修者数
- 学生の成績（S、A、B、C、E、F）

収集したデータはいずれも、学生を示す仮名加工情報に紐づけて取得しました。よって、分析者（佐々木）は特定の個人を識別できない状態で取得しています。

授業に紐づくデータのうち、授業アンケートの回答について、アンケートは授業ごとに実施したため、学生は、自身が受講した複数の授業に対しそれぞれ授業アンケートに回答できました。また、それぞれの授業に対し学生の成績を紐づけて収集しました。

本報告書では、原則として授業単位で分析しています（1レコード＝1学生のデータ）。また、各分析観点では有効回答数をNとして示しています。この有効回答数は、取得したデータのうち、分析に際し必要な情報が全て欠損なく得られたデータの数を示しています。

1.3 アンケートの設問項目について

実施した授業アンケートでは、全学部共通で以下の表に示す14項目について質問しました。選択肢欄に「リッカート尺度」と記載されている設問はすべて、回答の選択肢が7件法のリッカート尺度（1. 全くそう思わない／2. そう思わない／3. あまりそう思わない／4. どちらともいえない／5. ややそう思う／6. そう思う／7. 非常にそう思う）であることを示しています。リッカート尺度以外の選択肢をもつ設問については、個別に回答の選択肢を記載しています。

表：授業アンケートの設問項目

設問番号	設問項目	選択肢
1	講義要項（シラバス）に示されていた学習目標や内容と合致していた。	リッカート尺度
2	能動的に参加したくなるような授業であった。	リッカート尺度
3	この授業の内容を理解し、知識・技能等を習得できた。	リッカート尺度
4	この授業を通じて、自身の能力の高まりや成長につながった。	リッカート尺度
5	担当教員の話し方は聞き取りやすく、理解しやすいものだった。	リッカート尺度
6	担当教員は学生が集中できるように学習環境の維持に努めていた。	リッカート尺度
7	教科書や配布・提示資料（パワーポイント・ビデオ等）は授業内容の理解に役に立った。	リッカート尺度

8	担当教員によるフィードバック(個別質問への応答、レポートへのコメント、試験の講評など)は適切だった。	リッカート尺度
9	この授業に対する出席率について。	1. 8回以上欠席した 2. 6～7回欠席した 3. 4～5回欠席した 4. 3回欠席した 5. 2回欠席した 6. 1回欠席した 7. 全て出席した
10	1回の授業に対する予習・復習(ゼミ活動や図書館/インターネット等での情報検索時間も含む)の平均時間について。	1. 全くしなかった 2. 1時間未満 3. 1時間以上2時間未満 4. 2時間以上3時間未満 5. 3時間以上4時間未満 6. 4時間以上5時間未満 7. 5時間以上
11	この授業は総合的に満足できたか。	リッカート尺度
12	この授業の進行速度について。	1. 非常に速い 2. 速い 3. やや速い 4. ちょうどよい 5. やや遅い 6. 遅い 7. 非常に遅い
13	課題(宿題、レポートの提出、予習・復習など)の量について。	1. 非常に少ない 2. 少ない 3. やや少ない 4. 適切 5. やや多い 6. 多い 7. 非常に多い

14	全授業回のうち、あなたが遠隔授業形式によって受講した回数について。(計28回の授業科目については、()内の数値をお答えください。)	1. 0回 2. 1～3回 (1～6回) 3. 4～7回 (7～14回) 4. 8～13回 (15～27回) 5. すべての授業
15	この授業に関して、良かったと思う点を記載して下さい。	自由記述
16	この授業に関して、工夫・改善してほしいと思う点を記載して下さい。	自由記述
17	【この授業について1回以上遠隔授業形式で受講したと回答した方のみ回答してください】この授業で担当教員が利活用したオンラインコンテンツ(資料、オンデマンド動画、Webexなどの双方向型ツールの使い方、manabaの使い方など)について、良かったと思う点を記載してください。	自由記述
18	【この授業について1回以上遠隔授業形式で受講したと回答した方のみ回答してください】この授業で担当教員が利活用したオンラインコンテンツ(資料、オンデマンド動画、Webexなどの双方向型ツールの使い方、manabaの使い方など)について、工夫・改善してほしいと思う点を記載してください。	自由記述

1.4 本資料に示すグラフについて

本報告では、その差異や内容に特異性が認められたものを中心にグラフを掲載しております。また各グラフには集計の都合上、左上に「Q1」のように「Q[N]」と記載されています。設問番号は[N]にあたる数値をご参照ください。加えて特に断りがない場合は、グラフが指し示すデータは全学部・全学年のデータであることを予めご承知おきください。

2. 分析結果

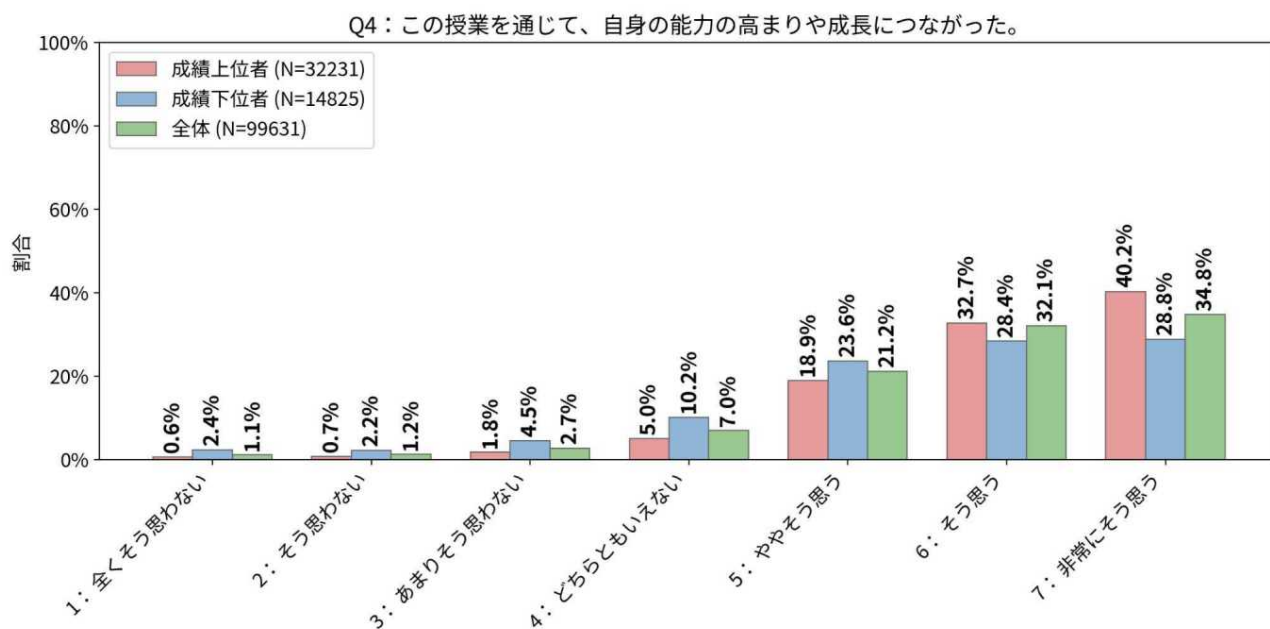
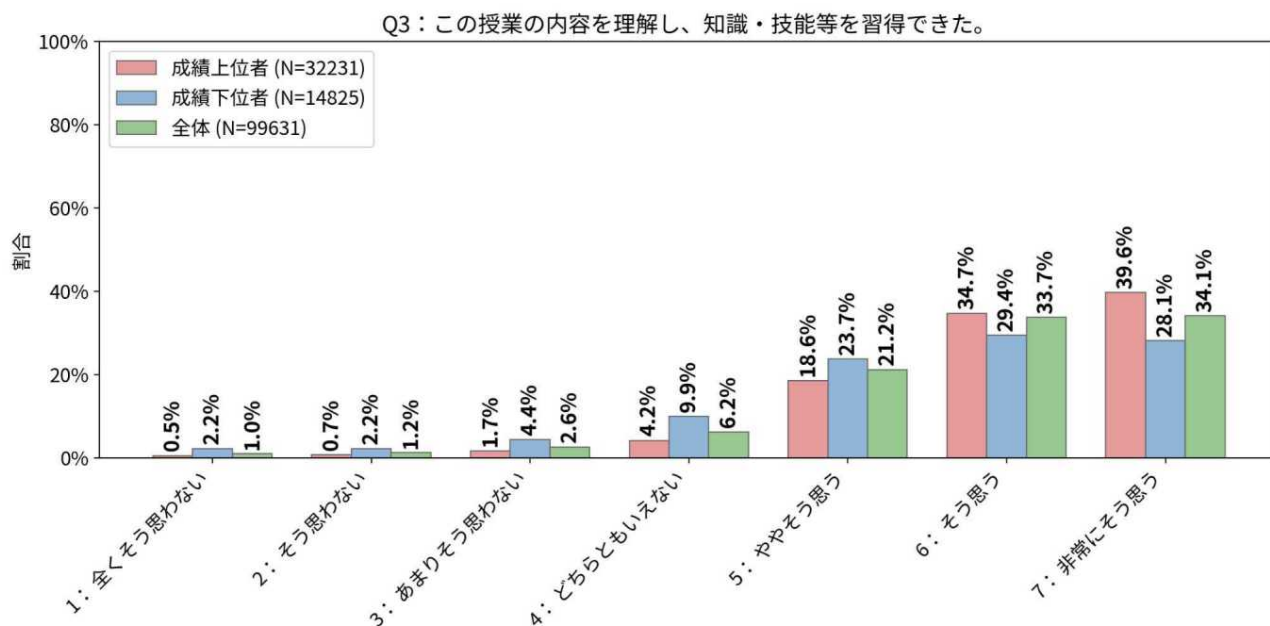
2.1 成績上位者／下位者別の回答傾向

各授業で、S評定を得た学生を「成績上位者」、C評定以下を獲得した学生を「成績下位者」と定義し、それぞれの群の回答傾向を分析しました。

ミニサマリー

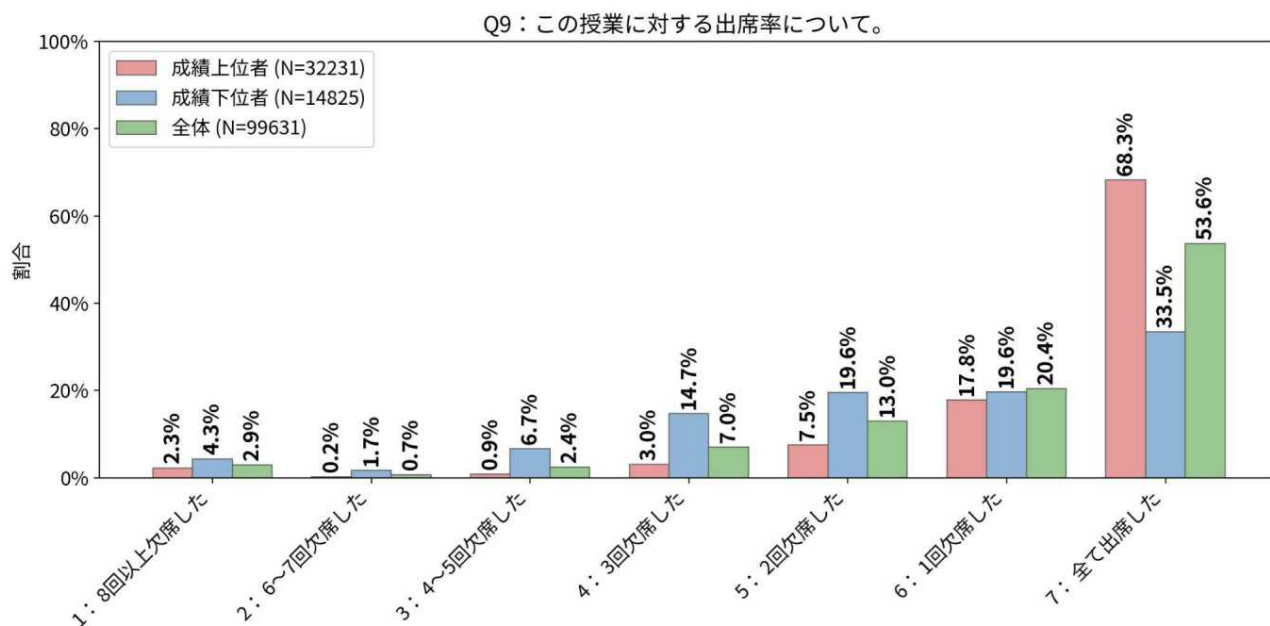
- 全体の回答傾向は昨年度までと変わらず、リッカート尺度で回答する設問では成績上位者の方が高い評価
- 成績上位者は全ての授業に出席する割合が高い
- 授業外学習時間の分布は2群とも変わらない

リッカート尺度で回答する設問1～8および設問11は、昨年度までの授業アンケートでは、成績上位者の方が、成績下位者に比べて「非常にそう思う」と回答した割合が高い傾向にありましたが、今年度も同様の結果が得られました。以下に例として、学生の自己成長に関する設問3と4の結果を示します。



これらの結果から、成績上位者は成績下位者より、自身の成長を実感していることを示唆しています。

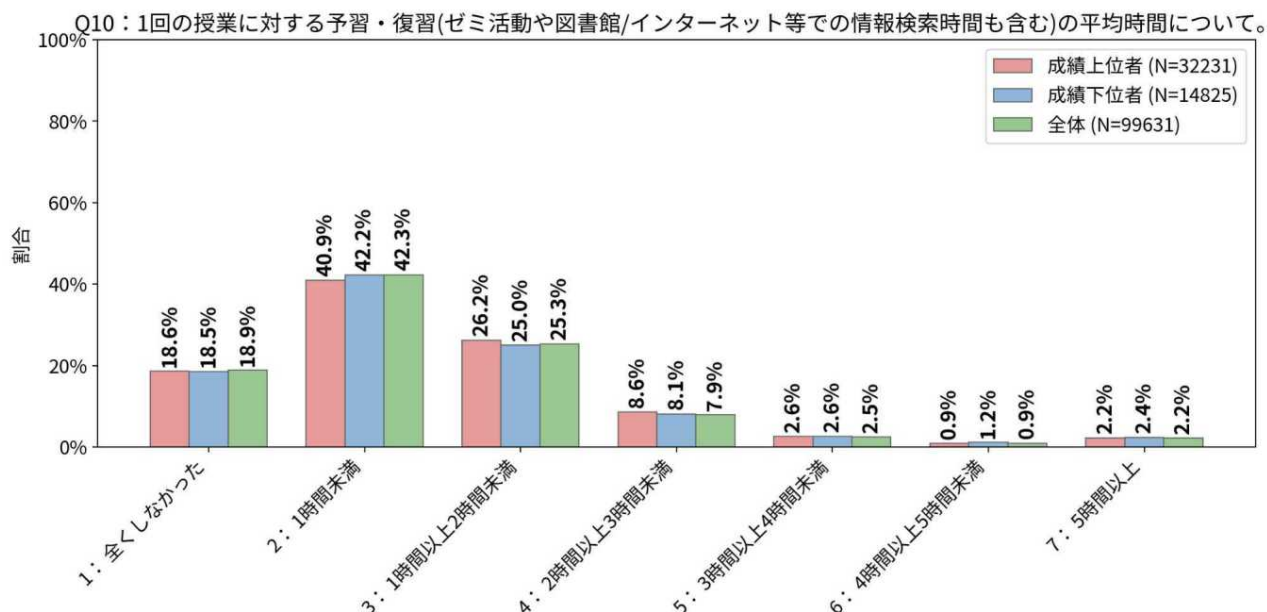
また、授業に対する出席率を問う設問9では、成績上位者の7割弱が「全て出席した」と回答したのに対し、成績下位者は3割強しか「全て出席した」と回答しませんでした。



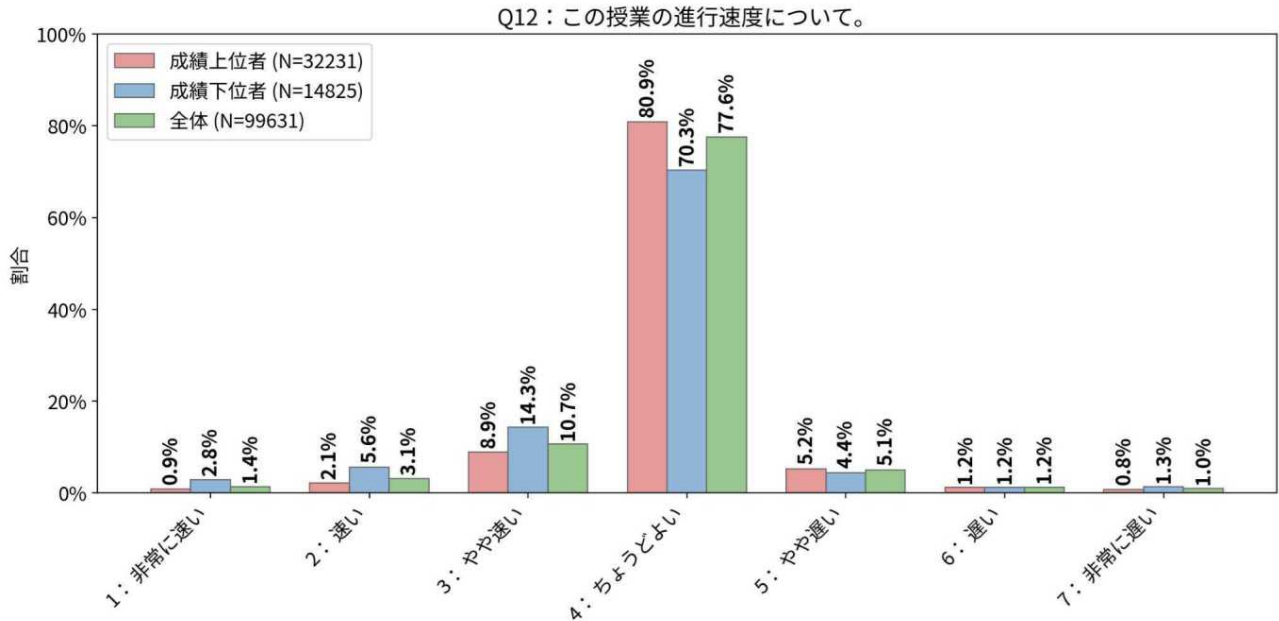
これも例年の傾向と変わりませんが、欠席回数が多い場合、その学生の成績不振が想定されます。特に小規模の授業をご担当されている先生は、欠席が多い学生を注視することで、早期ドロップアウトを阻止することができる可能性があります。

一方で、授業外学習時間を問う設問10では、成績の上位／下位に関わらず回答傾向に違いは見られませんでした。授業外の学習が成績に反映されていないのは、もしかしたら成績下位者にある種の虚無感を与えているかもしれません。

なお大学設置基準第二十一条の二では「一単位の授業科目を四十五時間の学修を必要とする内容をもって構成する」と定められています。2単位の授業では概ね授業外で4時間の学修が必要とされていますが、学習時間が短いことは、未だ問題として残っています。

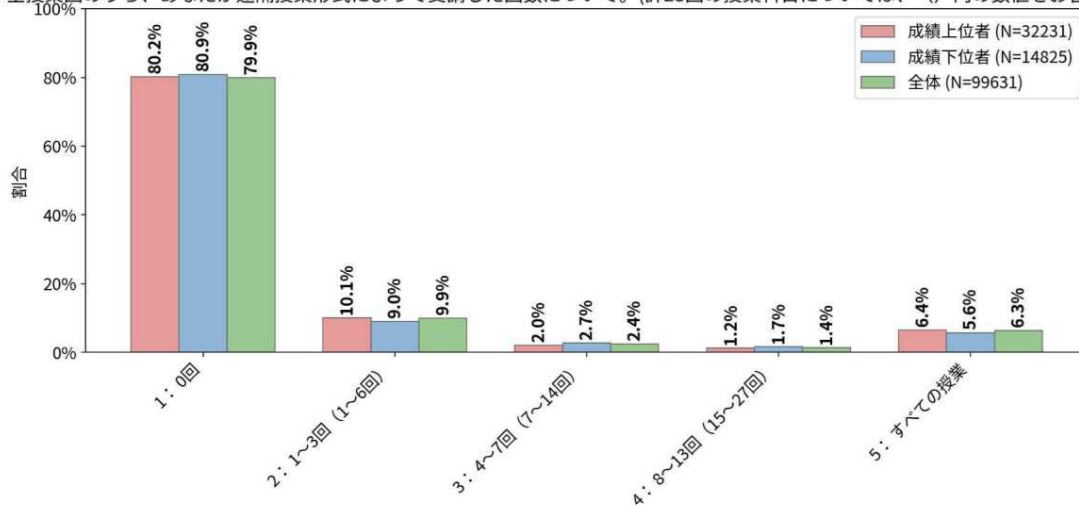


授業の進行速度を問う設問12は、こちらも例年通り成績下位者の方が「速い」と感じる割合が多かったです。授業の内容が飲み込めないまま授業が進んでしまっている可能性があるため、そのような学生のフォローが必要だと考えられます。



また全授業回のうち何回遠隔で受講したか、学生の受講形態を問う設問14では、2群間に差は見られませんでした。この結果から、受講形態が成績に関係するとは考えにくいことがうかがえます。

Q14：全授業回のうち、あなたが遠隔授業形式によって受講した回数について。(計28回の授業科目については、()内の数値をお答えください。)



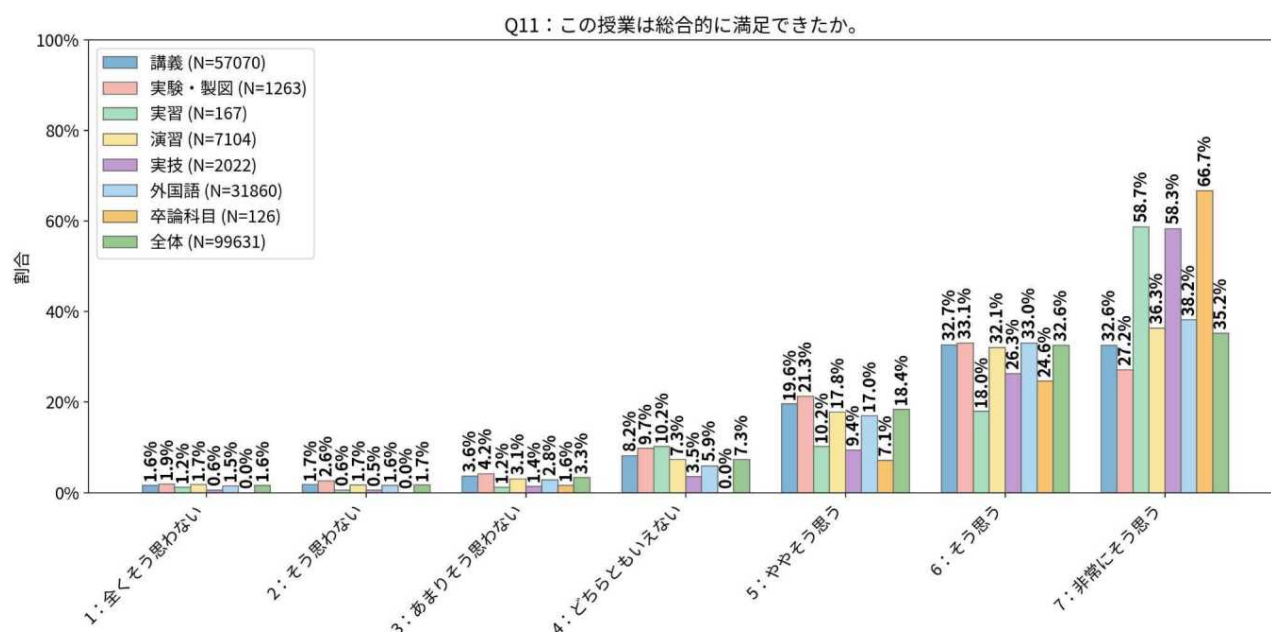
2.2 授業形態別の回答傾向

各授業は「講義」「実験・製図」「実習」「演習」「実技」「外国語」「卒論科目」のいずれかに分類されています。それぞれの授業におけるアンケートの回答傾向を分析しました。

ミニサマリー

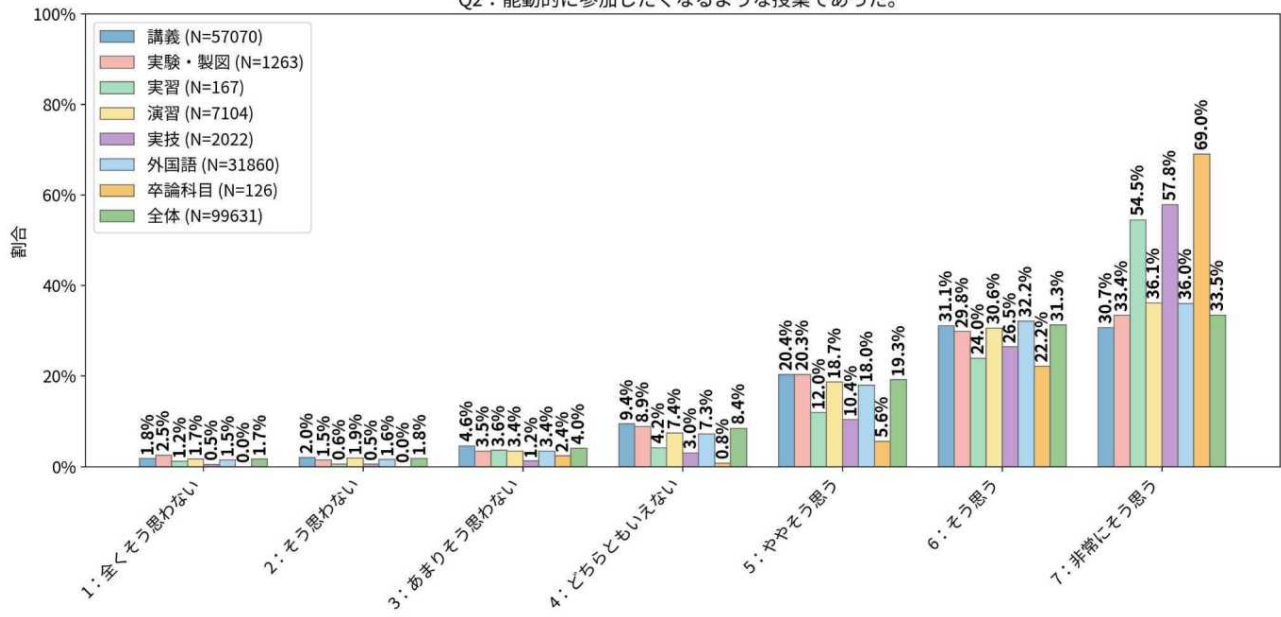
- 実習科目、実技科目、ならびに卒論科目では、リッカート尺度で回答する設問で比較的高い評価を得た
- 実験・製図科目において、学生にかかる負荷が高いことと、教員の話し方に関する不満が見られた

授業の満足度を問う設問11では、実習、実技、卒論科目において「非常にそう思う」と回答した割合が50%を超えていました。ただしこのうち、実習科目は理工学部（162科目）と文学部（5科目）のみ、卒論科目は国際経営学部（89科目）と総合政策学部（37科目）のみでしか開講されておらず、またサンプルサイズが小さいことにも留意が必要です。

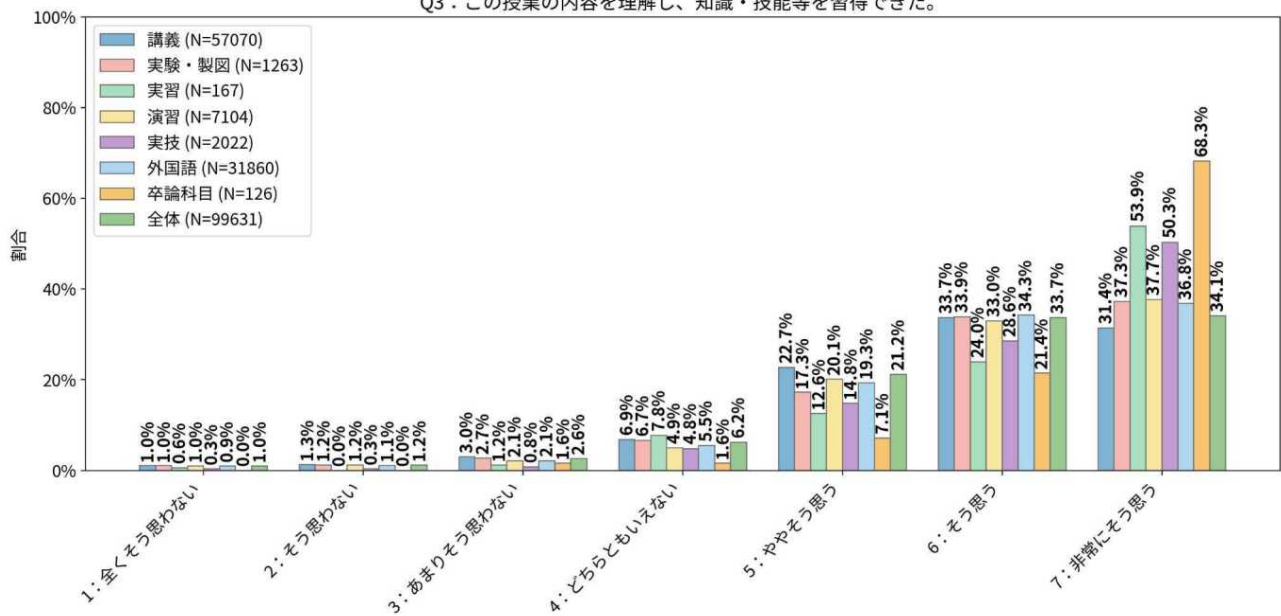


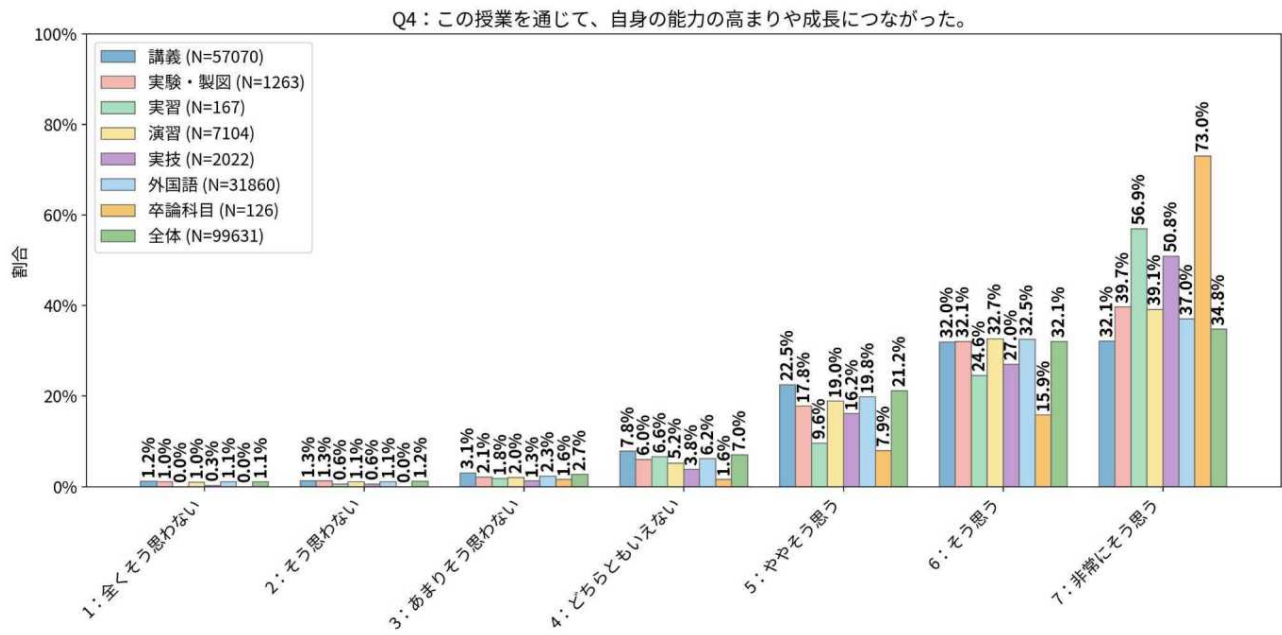
同様の傾向は、授業参加の能動性を問う設問2や、成長実感を問う設問3、4でも見られました。

Q2：能動的に参加したくなるような授業であった。

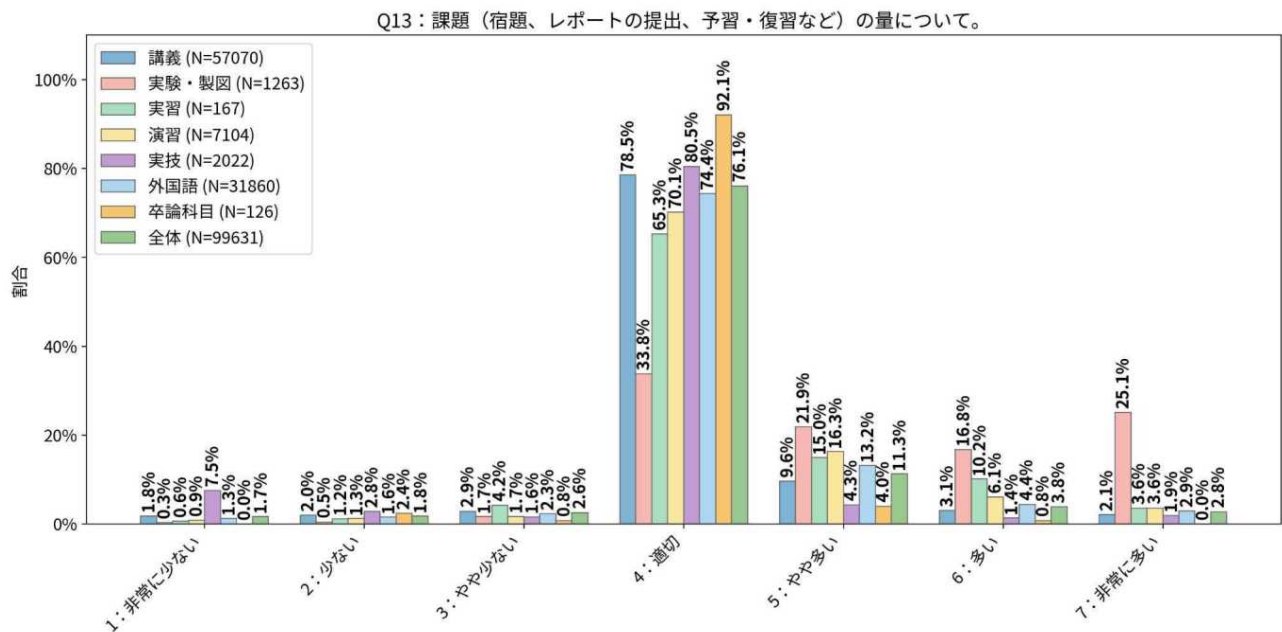
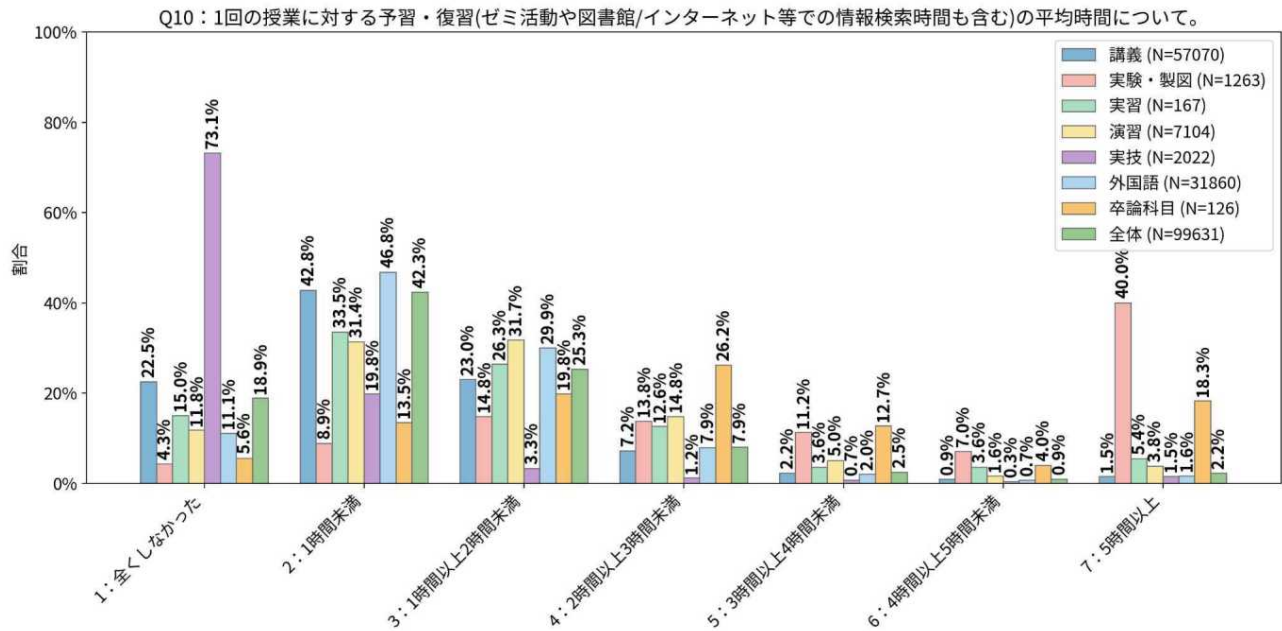


Q3：この授業の内容を理解し、知識・技能等を習得できた。

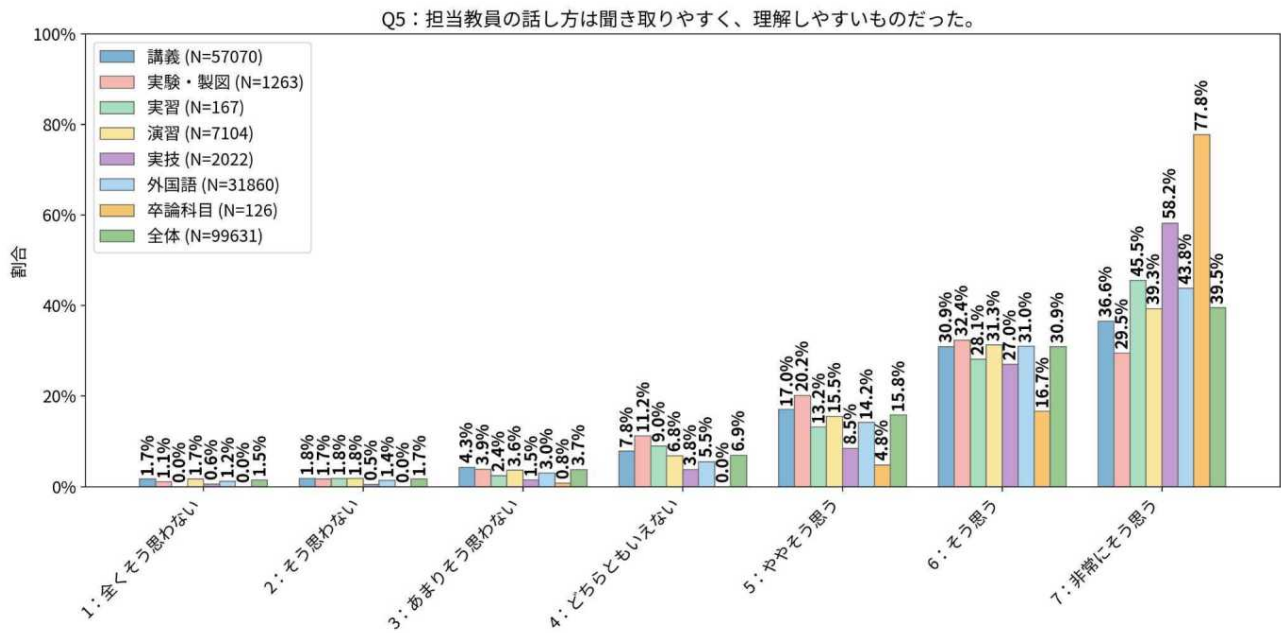




一方で、実験・製図科目では（科目の特性上致し方ないが）授業外学習時間や課題の量が、他の授業形態と比較して突出して長く多い様子が見受けられました。



その上で、担当教員の話の聞き取りやすさを問う設問5の回答で、実験・製図科目の評価が比較的低い様子がうかがえます。学生にかかる負担の軽減よりも、話し方については比較的改善が容易な部分かと思えますので、実験・製図科目を担当される先生はぜひ、お気をつけいただければ幸いです。

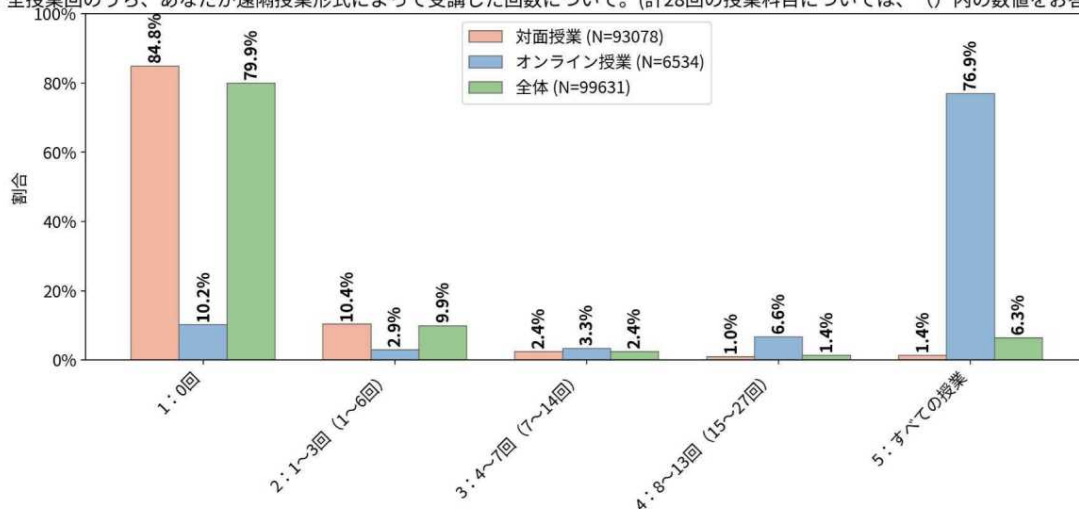


2.3 対面／遠隔授業科目別の回答傾向

当該科目が遠隔授業科目（全授業回数のうち半数を超える回が遠隔で行われる授業科目。教授会で定められる）かどうかで、アンケートの回答傾向を分析しました。なお、本節では遠隔授業科目は「オンライン授業」と呼称し、それ以外の授業を「対面授業」と呼称します。

なお前提として、ここでいうオンライン授業は、受講した学生自身が遠隔で受講したかどうか、とは関係ありません。ただし、下図に示す設問14（全授業回のうち、あなたが遠隔授業形式によって受講した回数について）の結果から、オンライン授業を受講した学生の約77%は全ての授業を遠隔環境で受講していたことが分かります。そのため本節で述べる分析対象となる回答情報は、全ての授業を遠隔で受講した学生が中心となって回答したものであることにご留意ください。

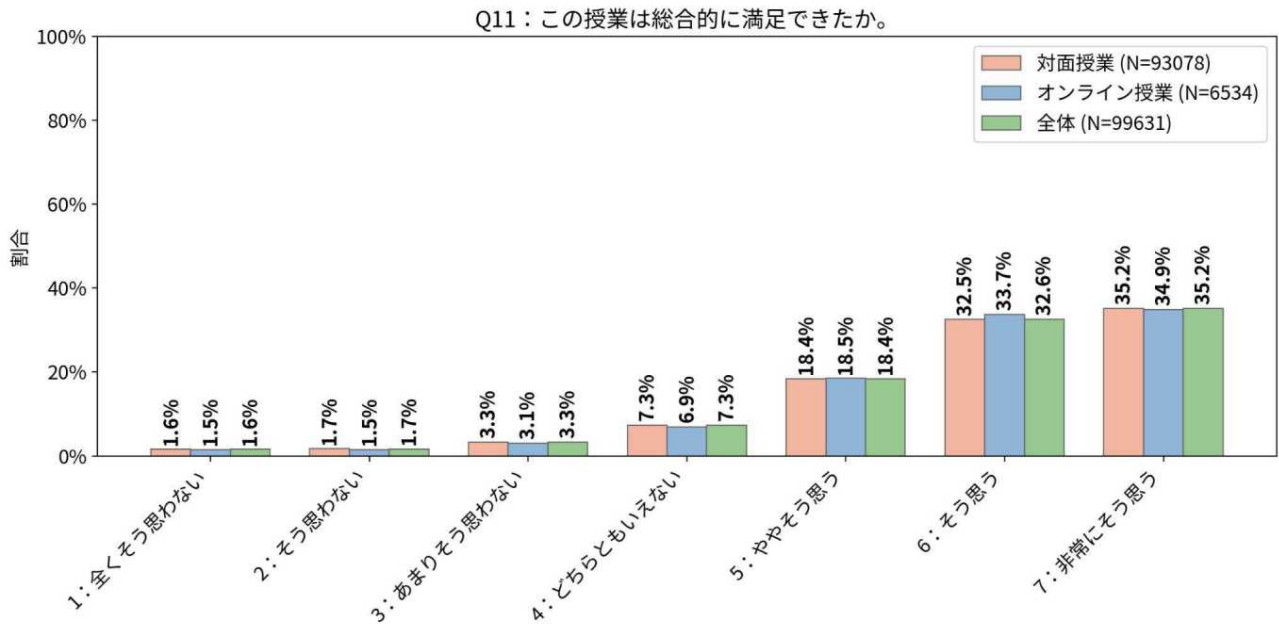
Q14：全授業回のうち、あなたが遠隔授業形式によって受講した回数について。（計28回の授業科目については、（）内の数値をお答えください。）



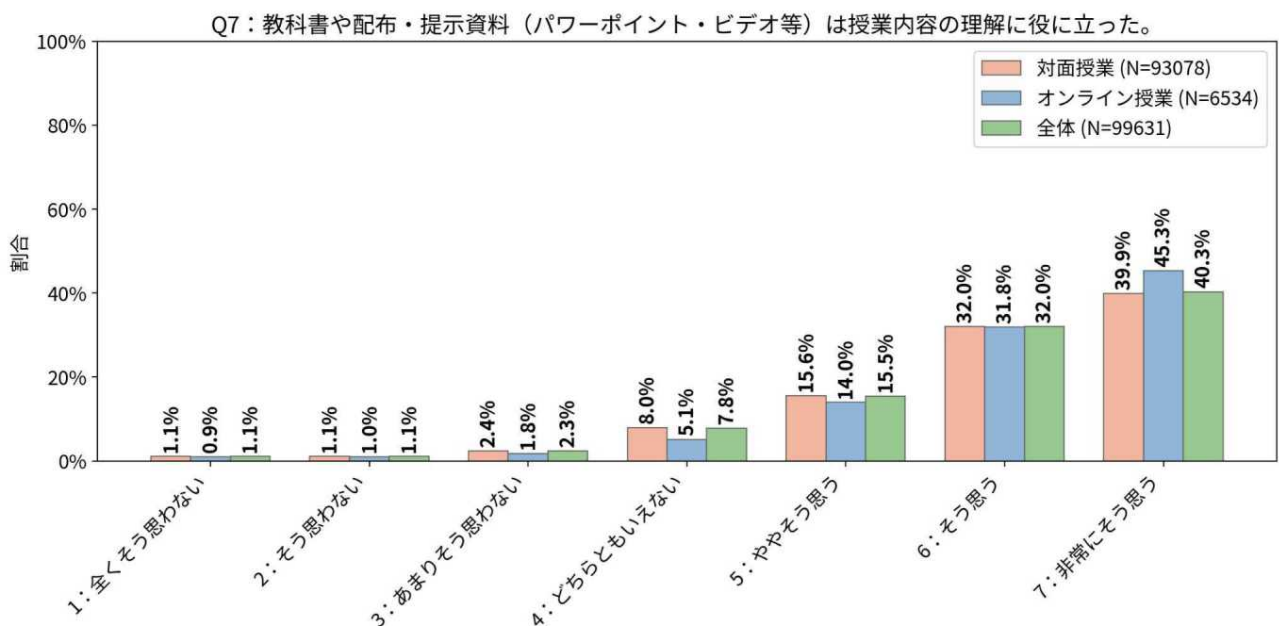
ミニサマリー

- 対面授業とオンライン授業で大きな差はなし
- 授業資料が役立ったことについては、オンライン授業の方が比較的高評価
- オンライン授業の受講生の方が授業外学習をしていない傾向

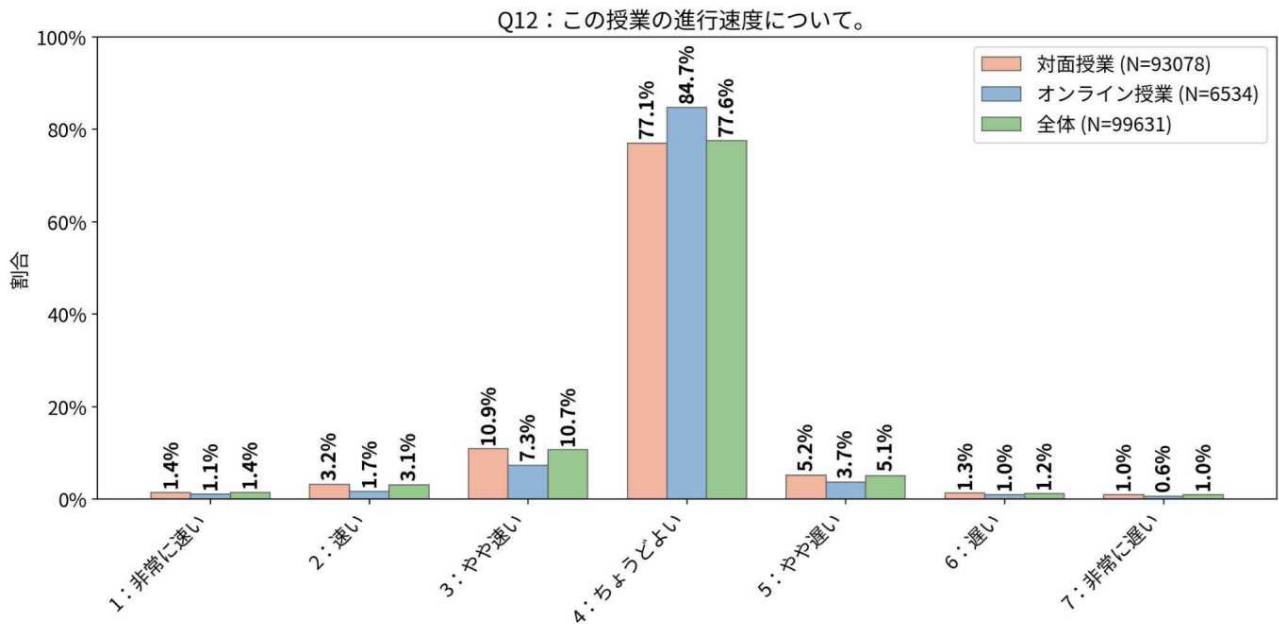
授業の満足度を問う設問11では、対面授業、オンライン授業でほぼ回答傾向に違いは見られませんでした。



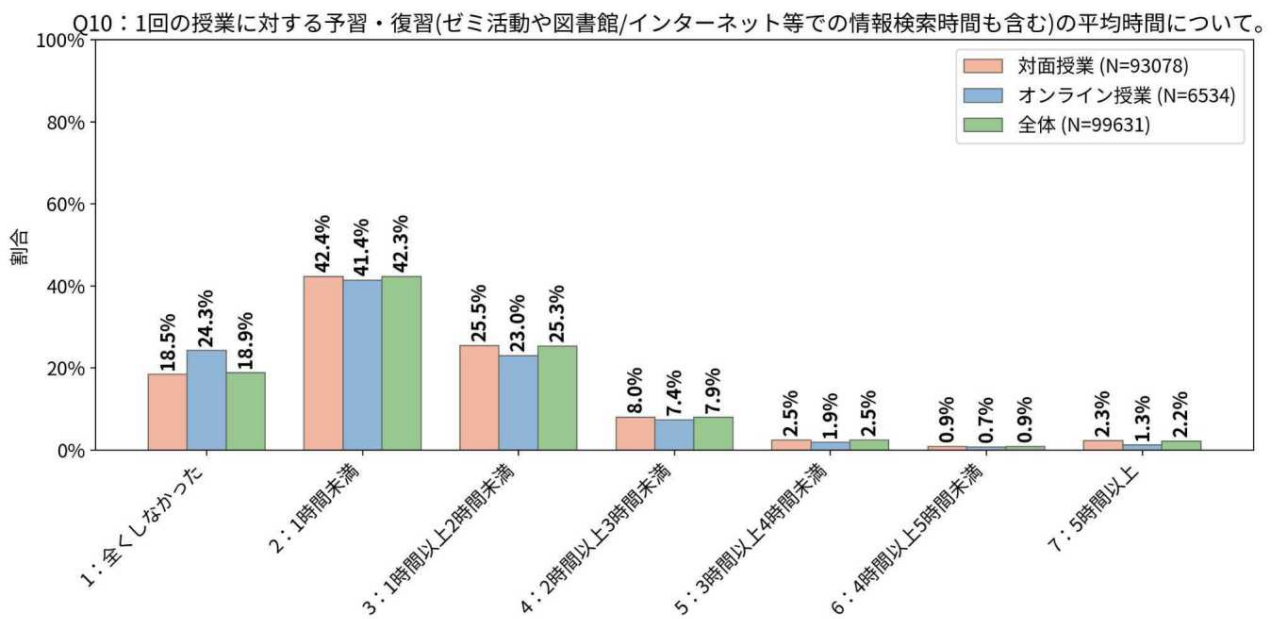
この設問以外にも、回答傾向に大きな違いは見受けられませんでした。授業資料が理解に役立ったか問う設問7では、比較的オンライン授業の評価が高い様子が見受けられました。これは、昨年度までにも同様の傾向が見られています。



また授業の進行速度を問う設問12では、オンライン授業の受講生の方が「ちょうどよい」と回答した割合が比較的大きかったです。



その一方で授業外学習時間を問う設問10では、オンライン授業の受講生の「全くしなかった」と回答した割合がやや高かったです。



総じて、オンライン授業では対面授業と比較すると、「資料は役に立つと感じる」、「進行速度がちょうどよいと感じる」学生が多い一方で、「勉強自体はあまりしない」という学生も多いようです。

2.4 履修者数別の回答傾向

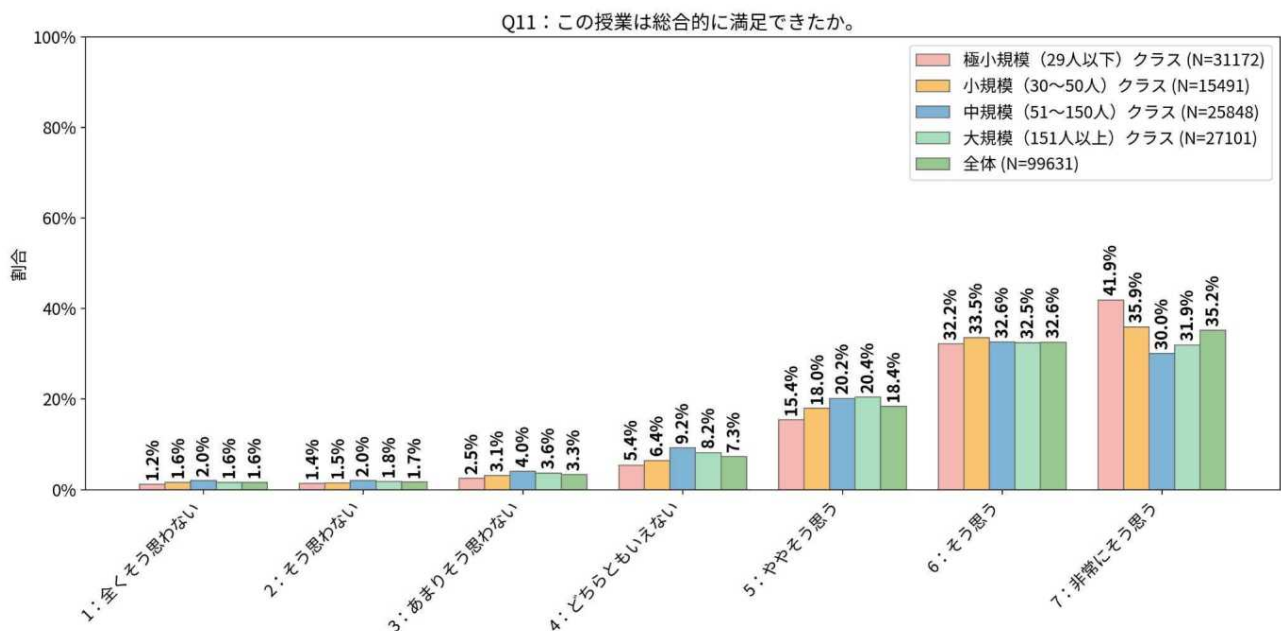
授業の履修者数を、[2023年度の自己点検・評価報告書](#)（報告書全編 p.181）を参考に以下のように区分し、アンケートの回答傾向を分析しました。なお、同一コースコードを持つ授業が複数開講されている場合（例：同一科目名を持つ授業でも受け持つ教員が異なる授業など）、アンケートの回答がどの授業で提出されたものか区別できないため、同じコースコードを持つ複数の履修者数の平均をとり、その整数値（小数点以下四捨五入）を履修者数と定義しています。

- 極小規模クラス：29人以下
- 小規模クラス：30～50人
- 中規模クラス：51～150人
- 大規模クラス：151人以上

ミニサマリー

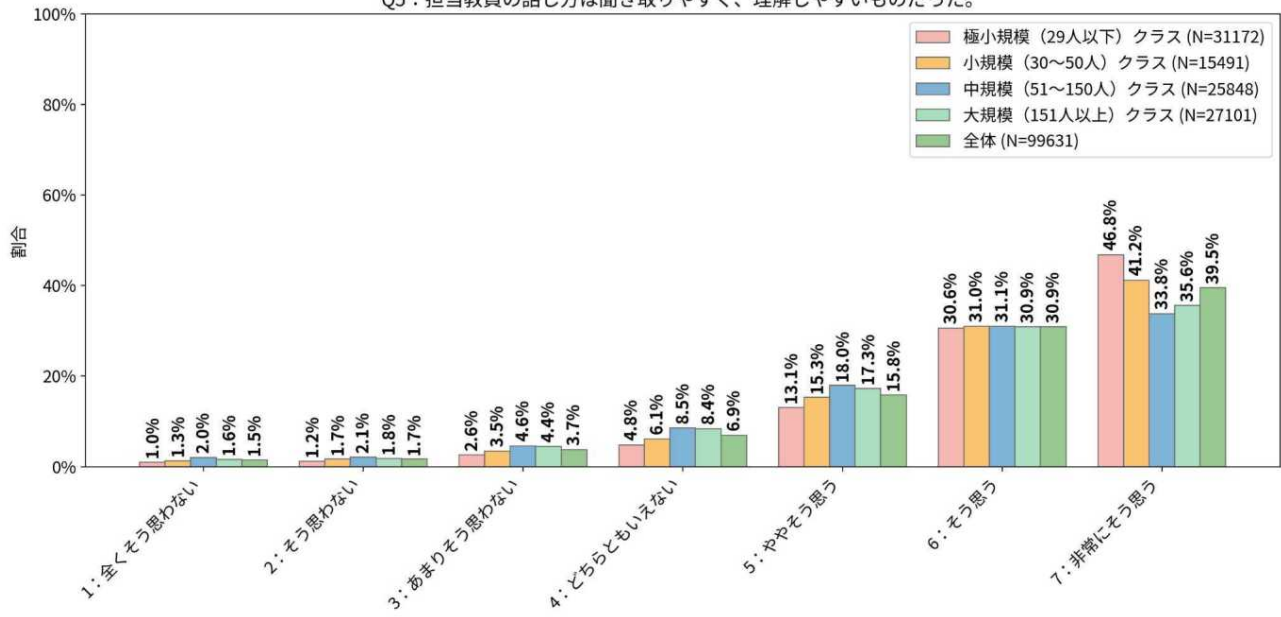
- 履修者数が少ない授業の方が、リッカート尺度の設問で比較的高評価
- 授業外学習時間は、履修者数が少ない授業の方が比較的に長い

授業満足度をはじめとするリッカート尺度で回答する設問では、概ね履修者数が少ない授業の方が高い評価を得ていました。

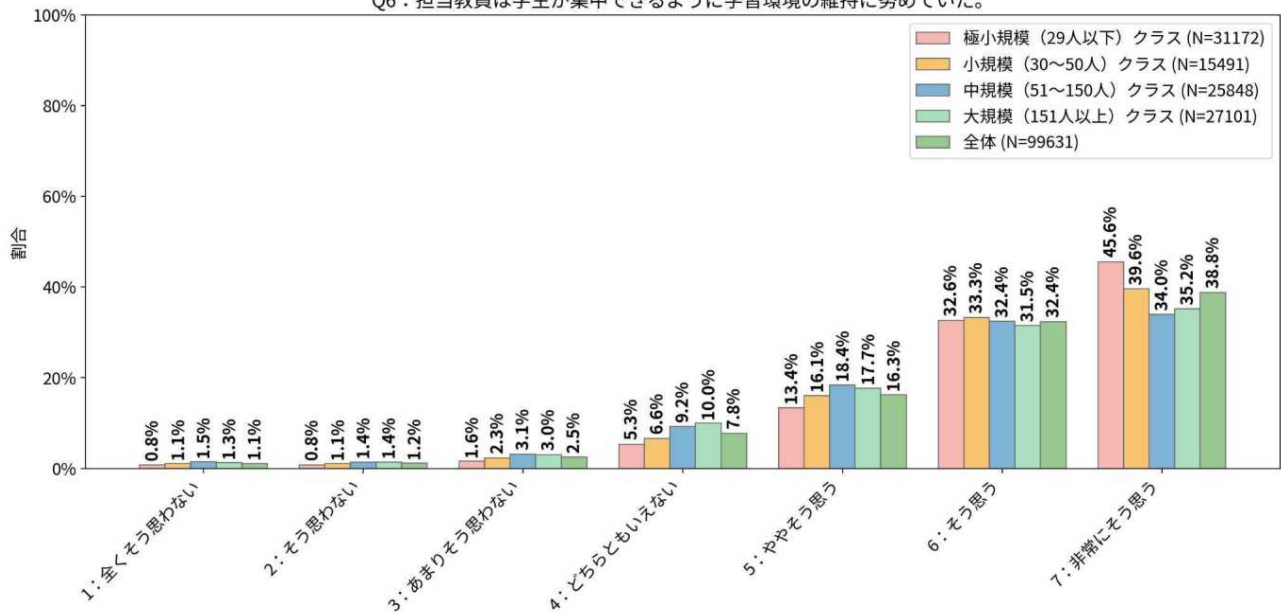


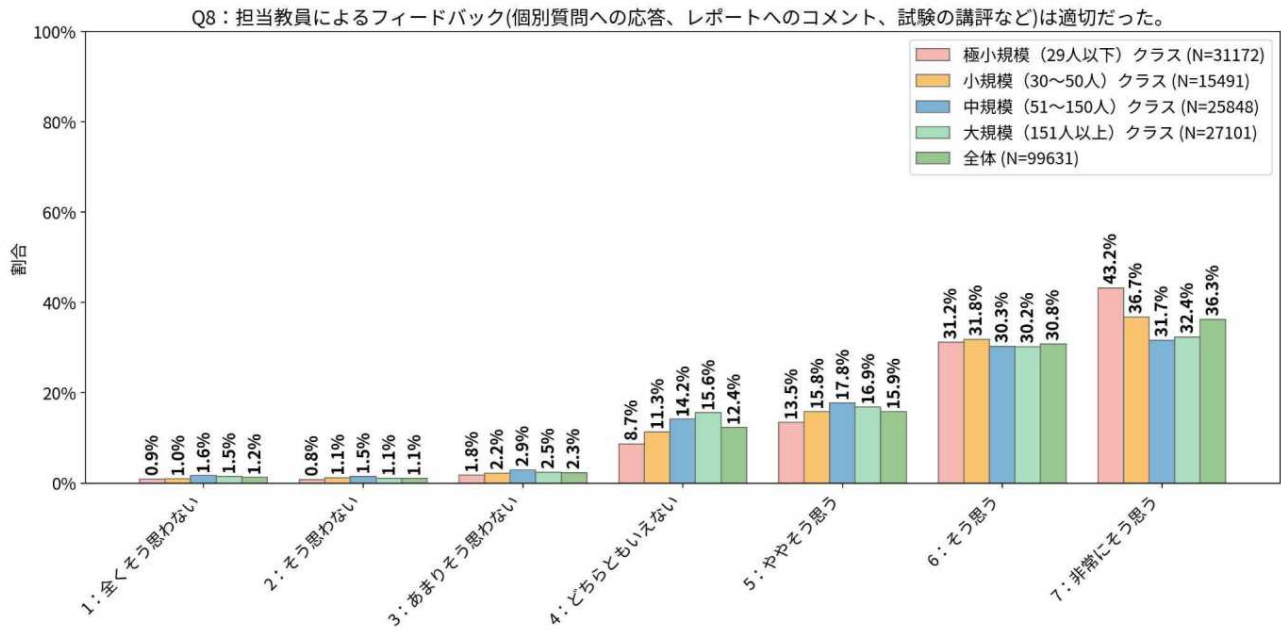
特に、中規模クラス以上の授業を受講した学生の回答数（52,949件）は、全体の半分以上を占めるにもかかわらず、全てのリッカート尺度の設問で全体平均を下回る結果となっていました。特に、担当教員の話の理解しやすさを問う設問5や、学習環境を問う設問6、フィードバックの適切性を問う設問8では、極小規模クラスと中規模クラス以上で差が見られました。

Q5：担当教員の話し方は聞き取りやすく、理解しやすいものだった。

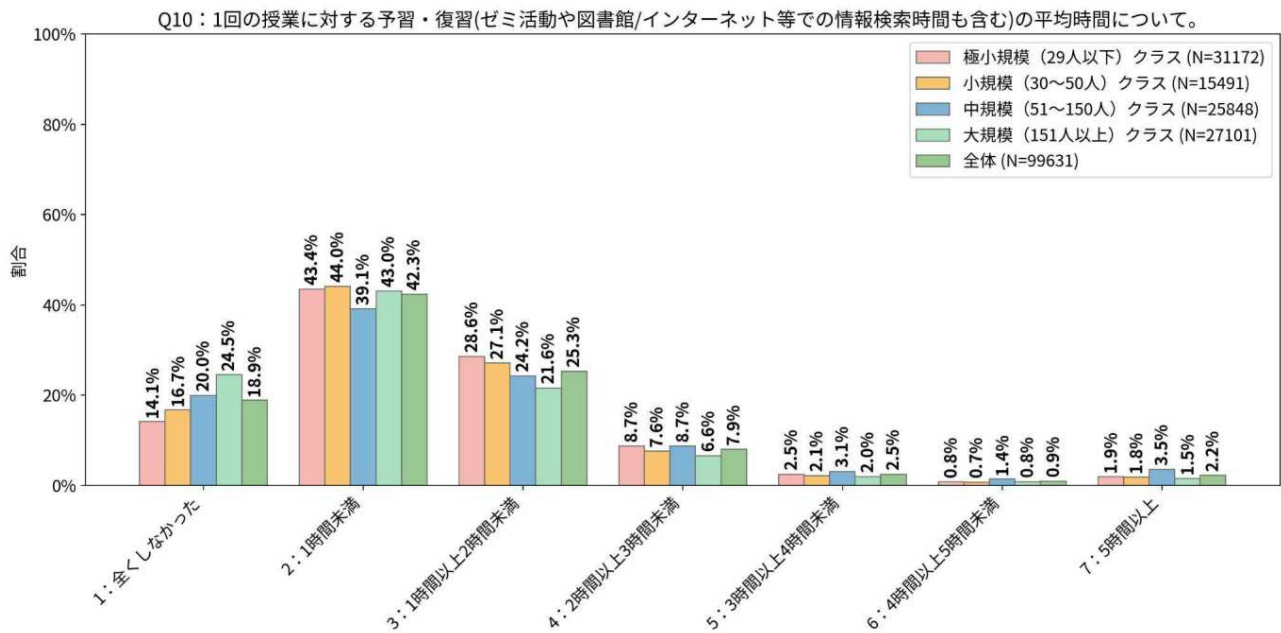


Q6：担当教員は学生が集中できるように学習環境の維持に努めていた。



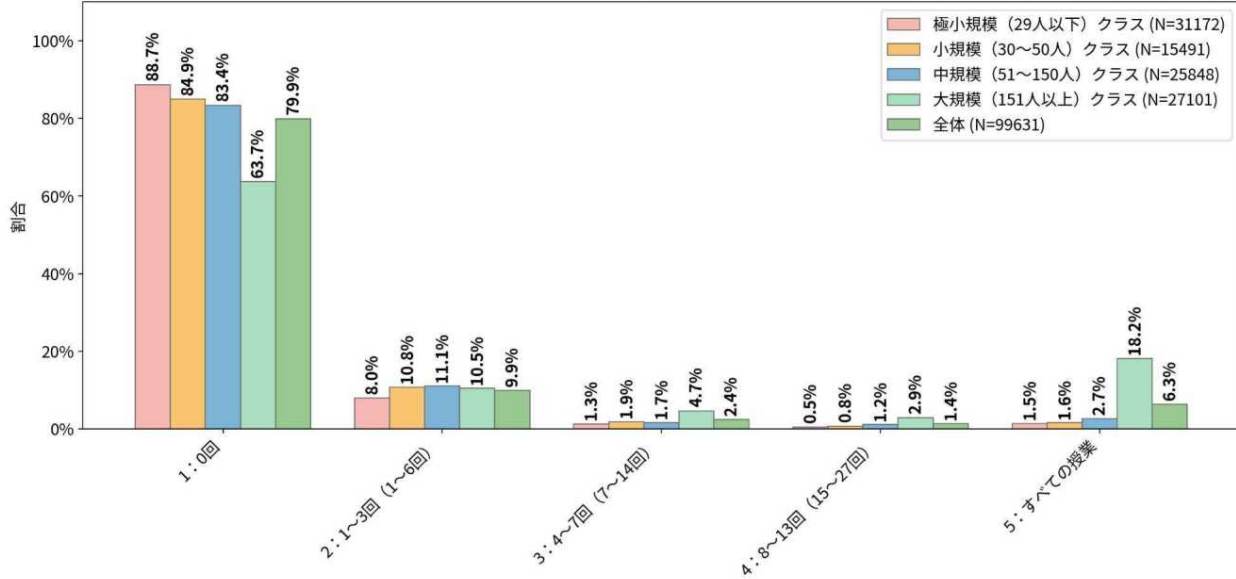


加えて、履修者数が多い授業では、授業外学習を「全くしなかった」割合が比較的高いことがうかがえます。

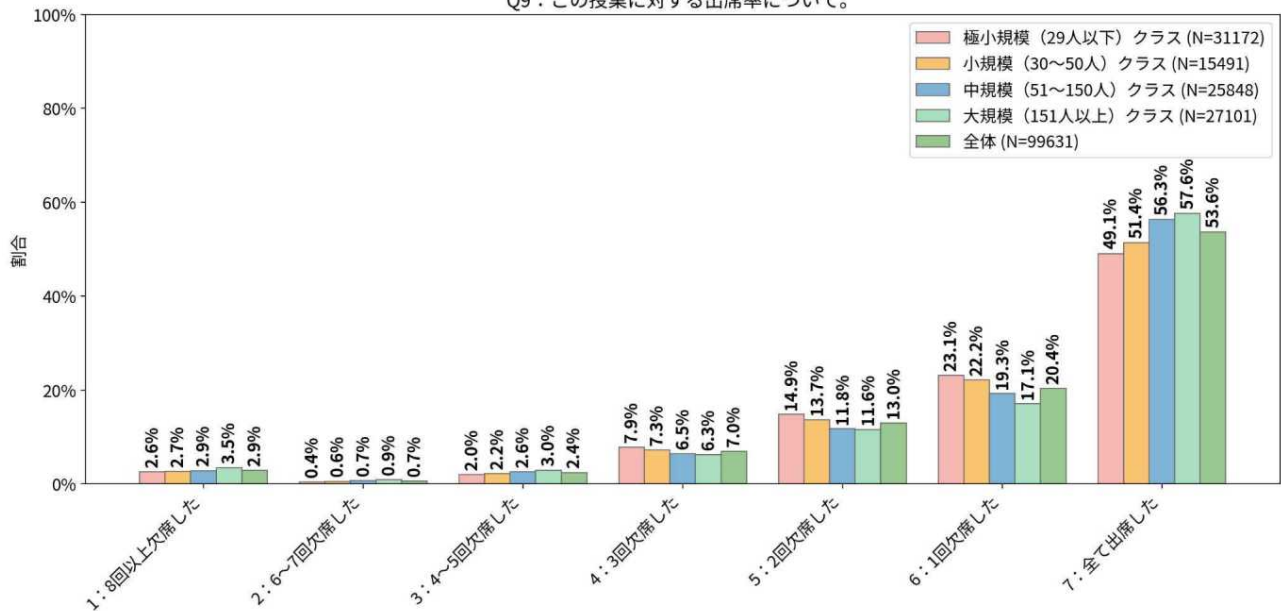


別の観点では、大規模クラスは回答者の2割弱が全ての授業を遠隔で受講しており、また出席率は大規模クラスが最も高くなっていました。

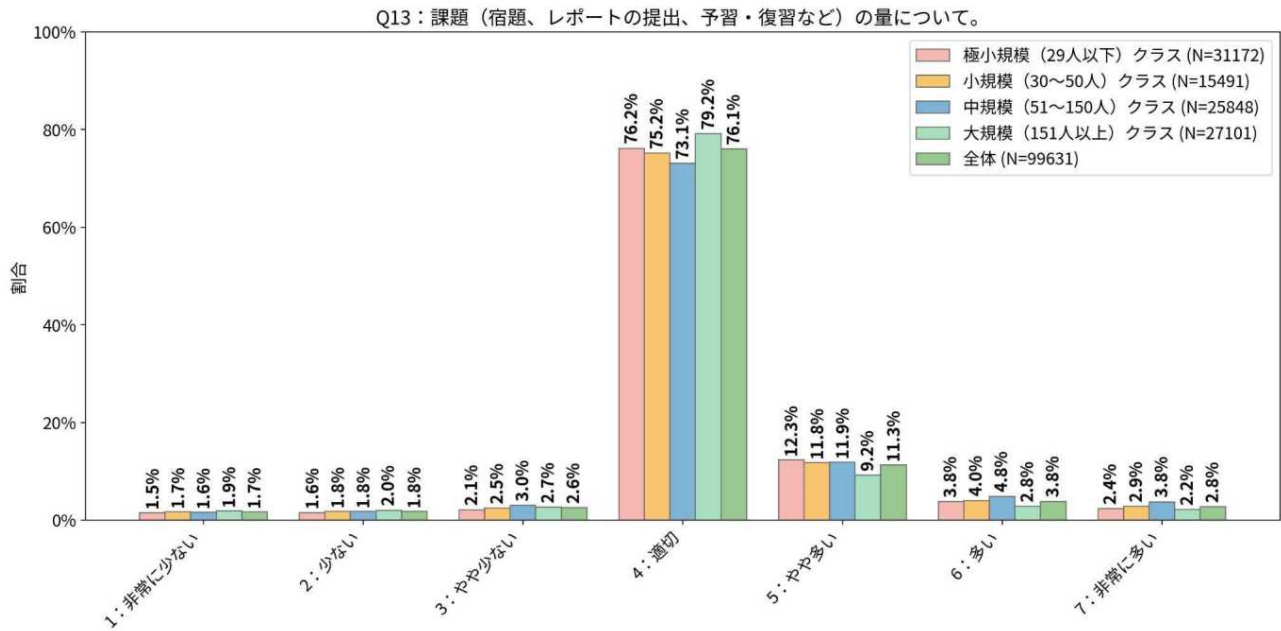
Q14：全授業回のうち、あなたが遠隔授業形式によって受講した回数について。(計28回の授業科目については、()内の数値をお答えください。)



Q9：この授業に対する出席率について。



また、課題の量については大規模クラスが最も「適切」と回答した割合が高かったです。



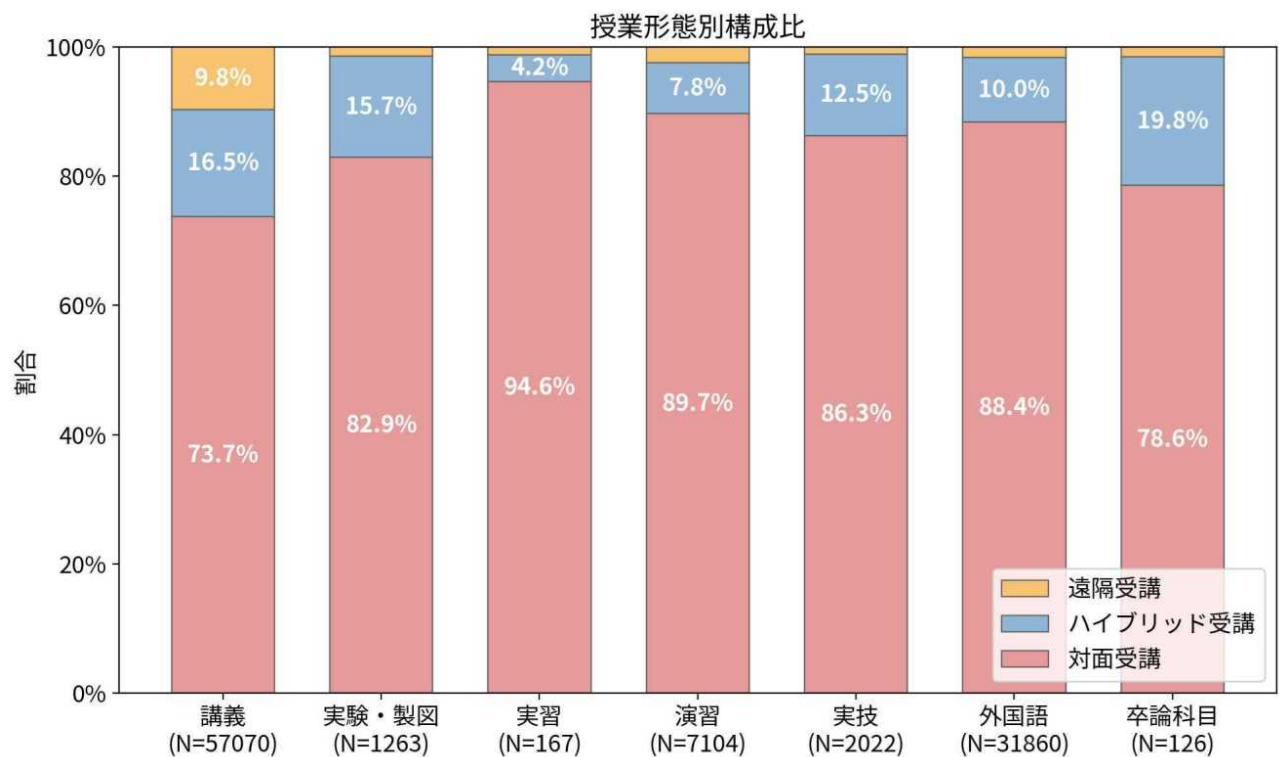
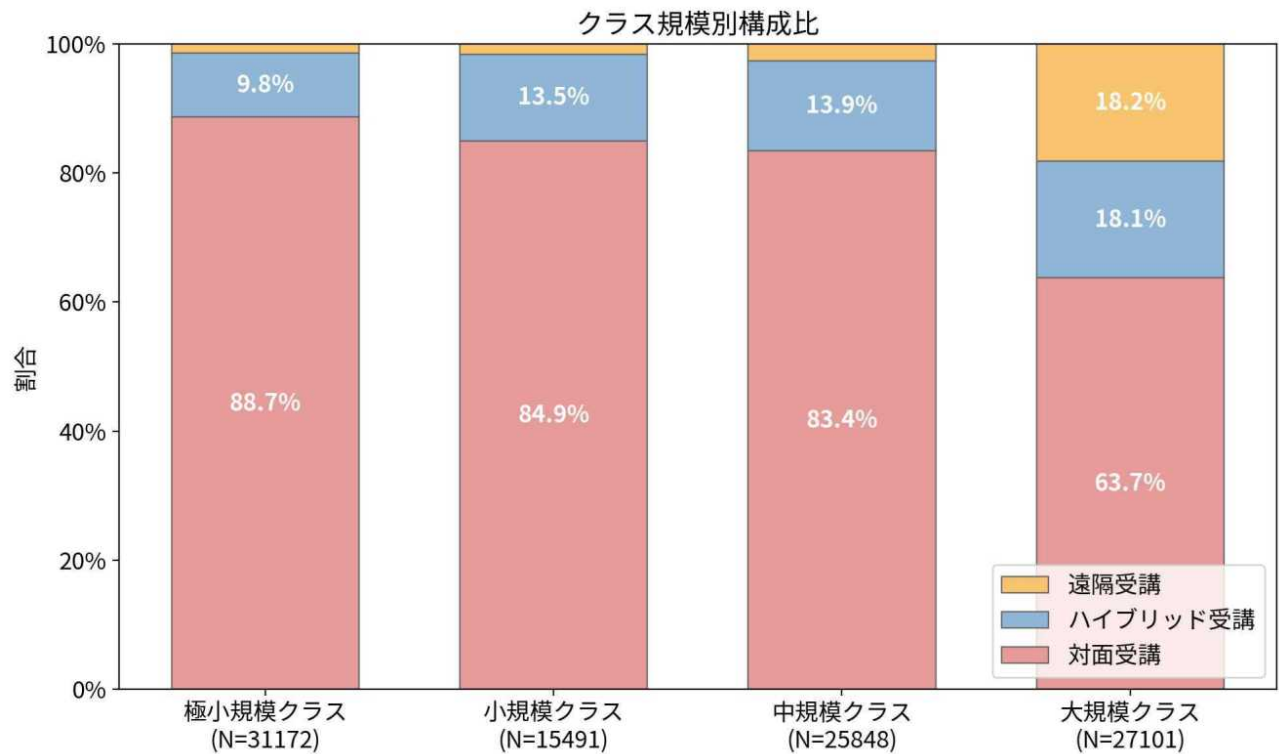
2.5 受講形態別の回答傾向／成績傾向

設問14に基づき、学生の受講形態を「全て対面で受講した（対面受講）」「全て遠隔で受講した（遠隔受講）」「対面と遠隔の両方で受講した（ハイブリッド受講）」の3群に区分し、回答傾向を分析しました。

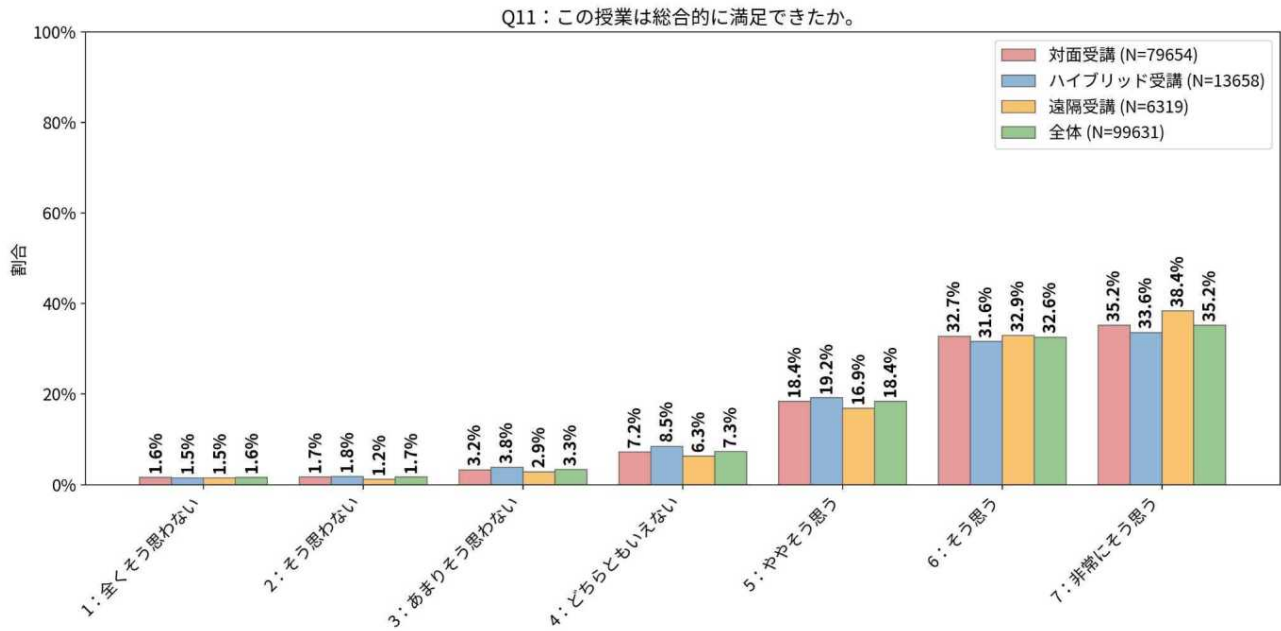
ミニサマリー

- 受講形態別に回答傾向の違いはほぼないが、遠隔受講の学生は、ハイブリッド受講の学生と比較して僅かに高い評価をしている
- 遠隔受講の学生は、資料が授業の内容に役立ったと感じている
- 遠隔受講の学生は、A評定の割合が他の受講形態の学生より大きく、B評定・C評定の割合が小さい

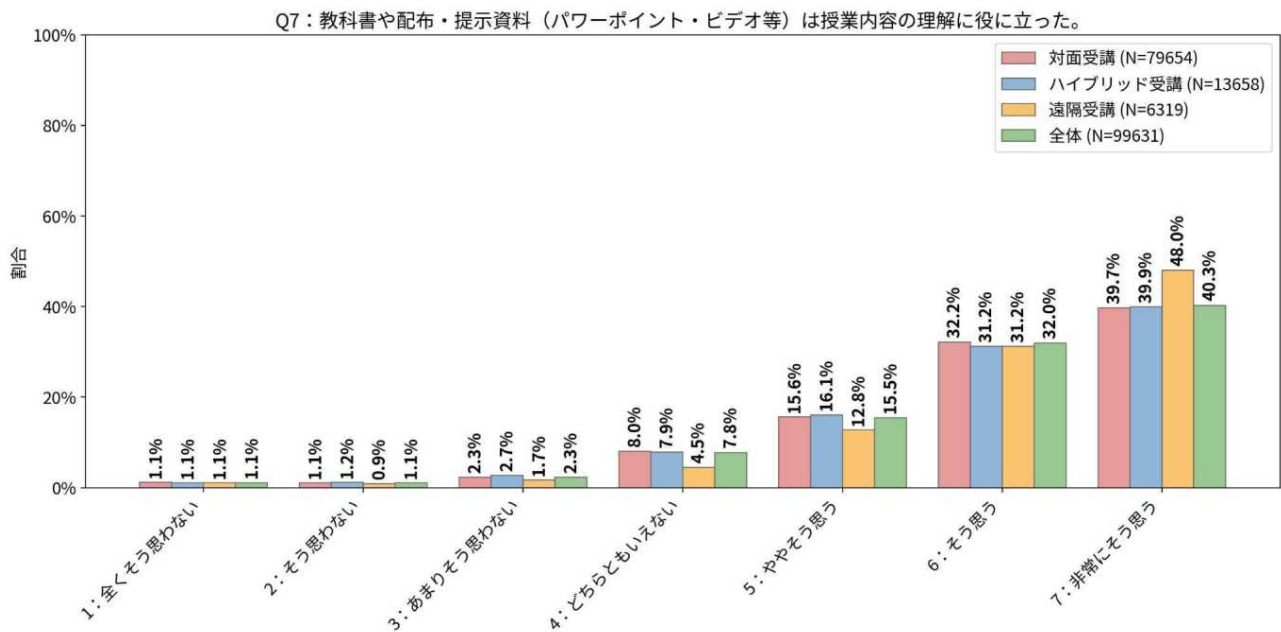
まず、クラス規模別、および授業形態別に受講形態の割合を示します。クラス規模別では規模が大きいほど遠隔受講の学生が多く、授業形態別では講義科目の授業で最も遠隔受講の学生が多かったです。



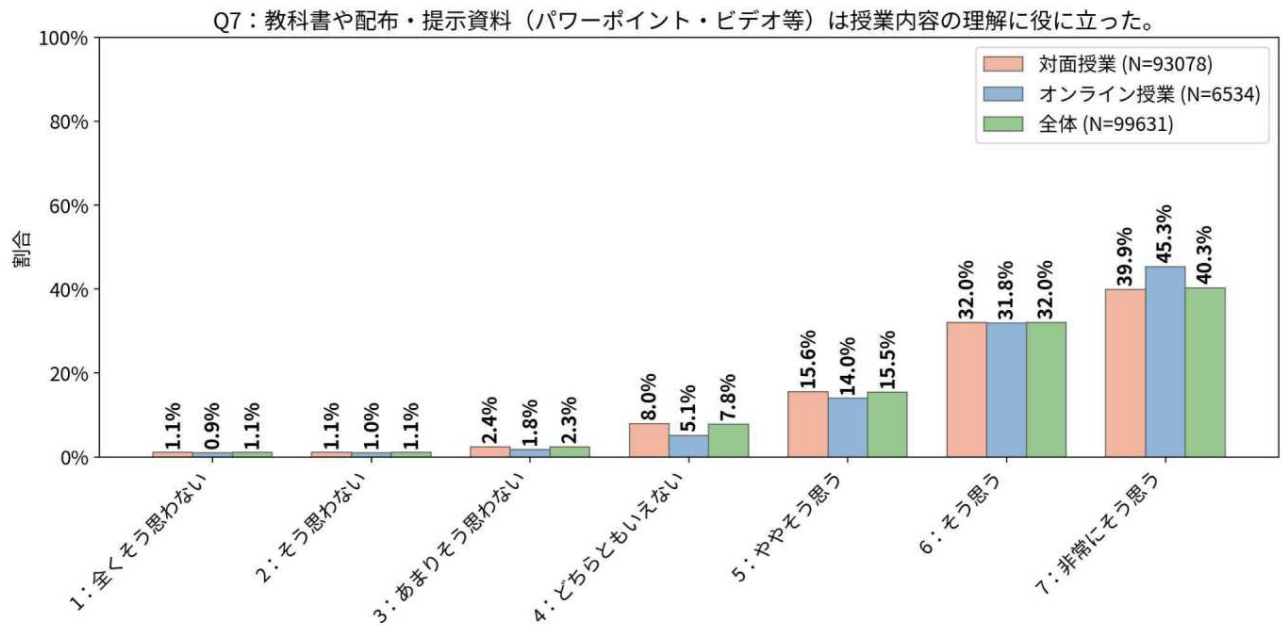
どの設問においても受講形態ごとに大きな違いは見受けられませんでした。平均的に遠隔受講の学生が僅かに高い評価を行っている傾向が見られます。例として、授業の満足度を問う設問11の結果を示します。



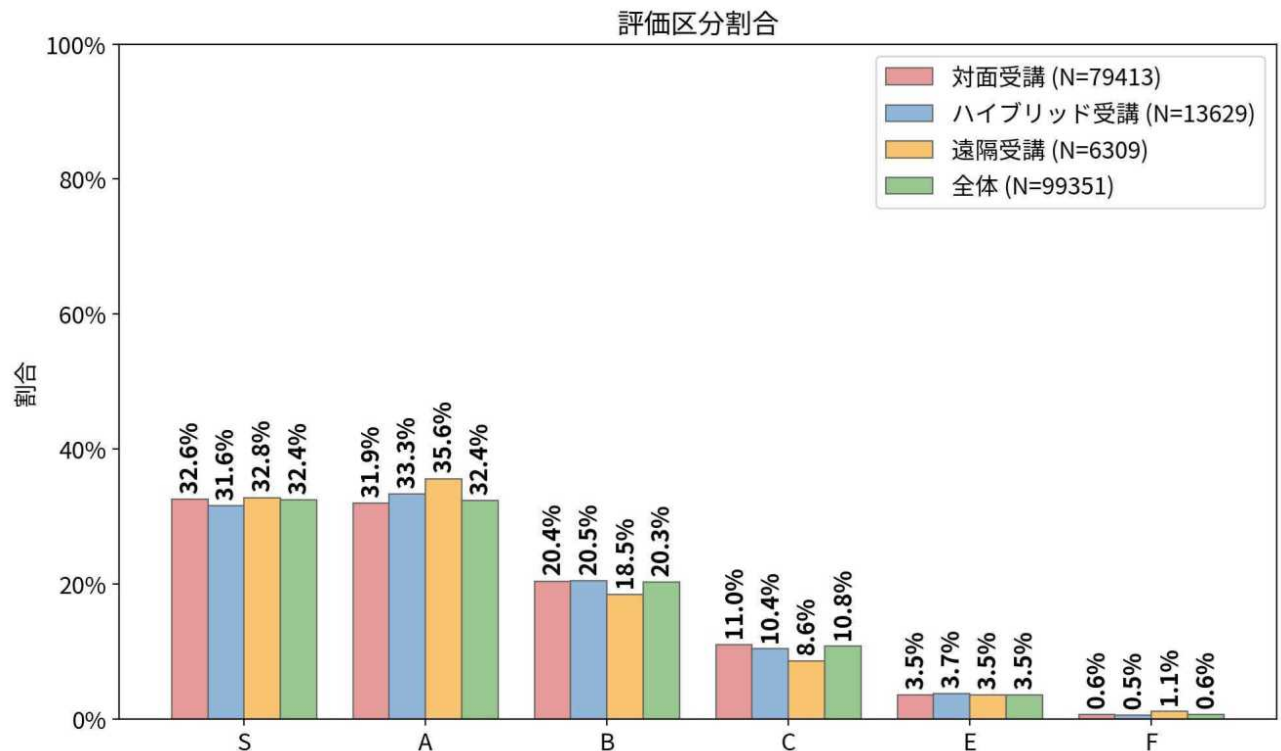
また、授業資料が授業内容の理解に役立ったか問う設問7で、遠隔受講の学生の評価が高く見られます。



ただし先述の通り、オンライン授業の8割弱がここでいう遠隔受講の学生に該当し、その数は約5,000件です。対面授業と比較すると、オンライン授業でも下図のように設問7の評価が高かったため、「オンライン授業だから授業資料が役立った」のか「遠隔で受講する際に授業資料が役立った」のか、またはその両方であるのかは慎重に判断する必要があります。



また昨年度も比較検討した内容として、受講形態別の成績分布を以下に示します。遠隔受講生は、他の受講形態の学生と比べて、BやCが少なく、Aが若干多い様子が見受けられます。これが「遠隔受講の学生はよくできている」となれば良いのですが、「遠隔受講の学生に対する評価が甘い」という可能性も考えられるので、留意が必要です。



2.6 授業満足度別の回答傾向／成績傾向

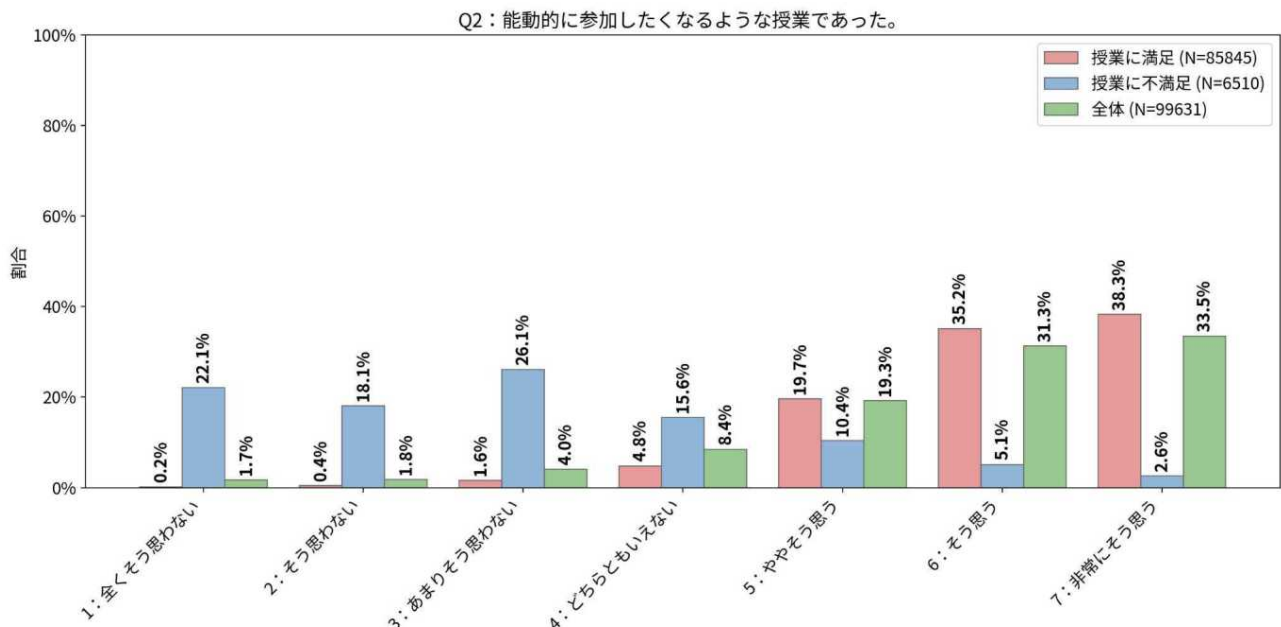
これまでの授業アンケート分析において、設問11で問う「授業の満足度」という指標について、「満足度とはどう定義するのか」「これを聞くことに意味はあるのか」といった、正当性や妥当性に関する意見を頂戴しました。これを検討する材料として、設問11「この授業は総合的に満足できたか。」の回答のうち、「1：全くそう思わない～3：あまりそう思わない」を「授業に不満足」群、「5：ややそう思う～7：非常にそう思う」を「授業に満足」群と定義し、アンケートの回答結果を示します。

ただし授業に不満足な学生は、様々な観点で不平や不満を言う可能性は十分に考慮する必要があります。

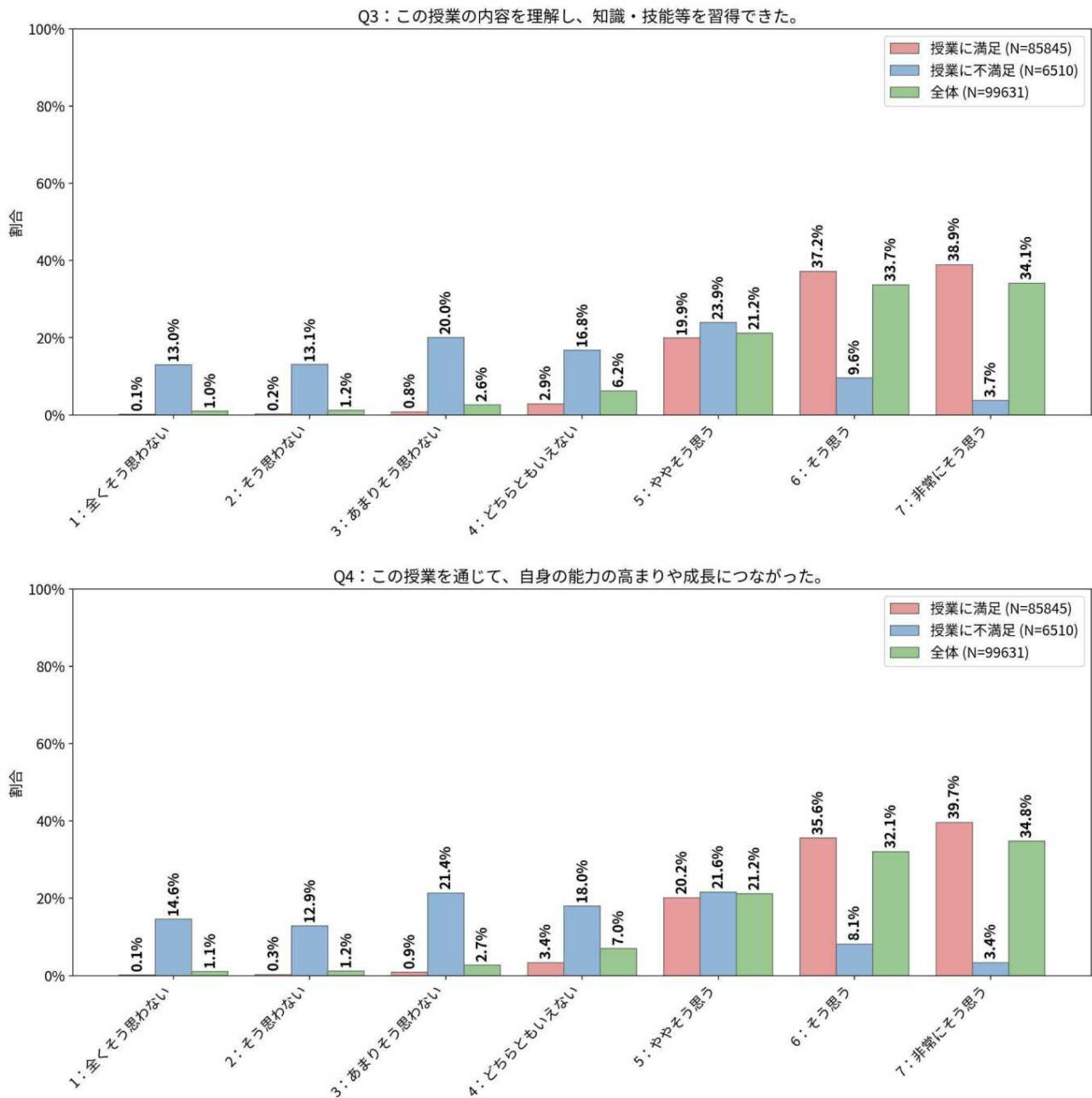
ミニサマリー

- リッカート尺度で回答する設問では、概ね授業に満足している学生の分布は左に歪み（右に山ができる）、授業に不満足な学生の分布は真ん中に山ができるか、右に歪んで（左に山ができて）いる
- 授業に不満足である場合、成績も低くなる傾向
- 中間アンケートとして授業満足度を聞くと、その学生の"今後"が推測できるかもしれない

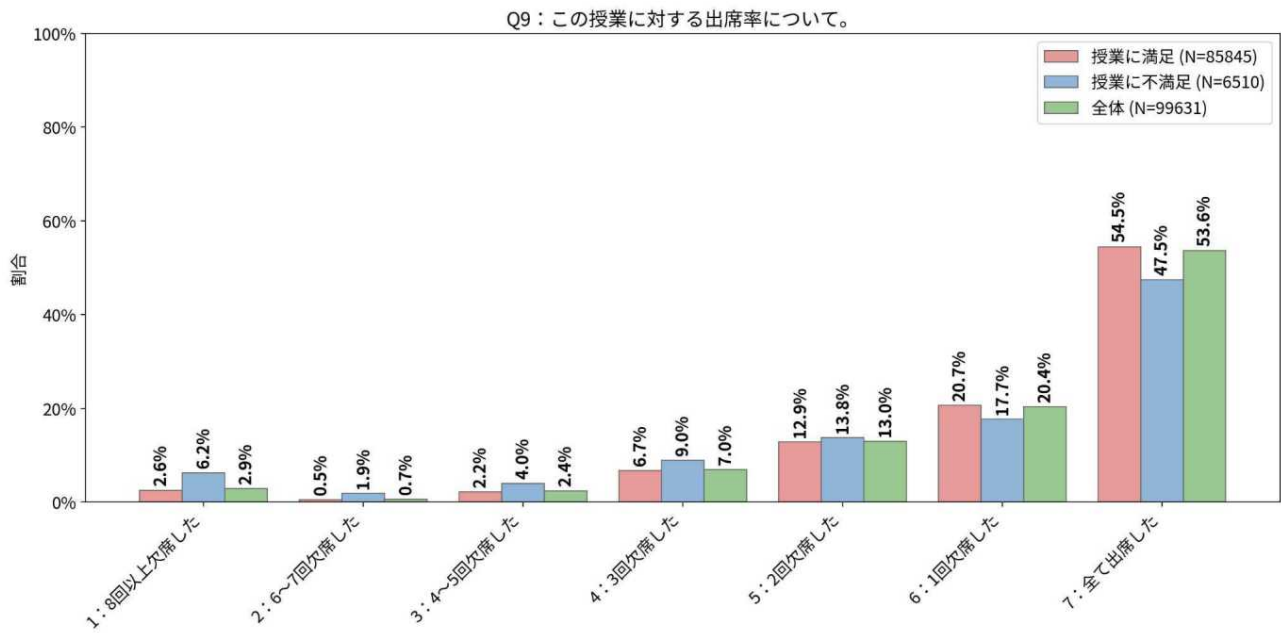
リッカート尺度の設問で見ると、授業に不満足な学生の回答分布は、授業に満足な学生よりも低い方向に偏る傾向が見られました。例えば、授業参加に能動的か問う設問2では、授業に不満足な学生の約66%が「あまりそう思わない」以下と回答しました。



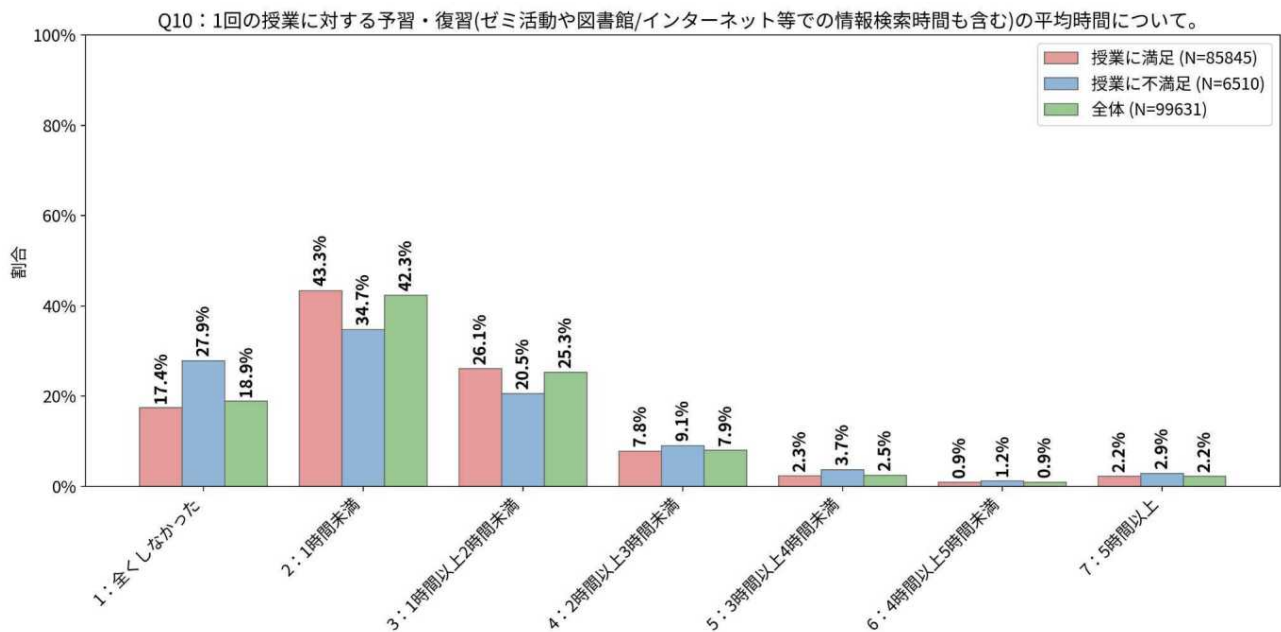
この傾向は、成長実感を問う設問3、4をはじめ、リッカート尺度で回答する設問のほぼ全てで見受けられました。



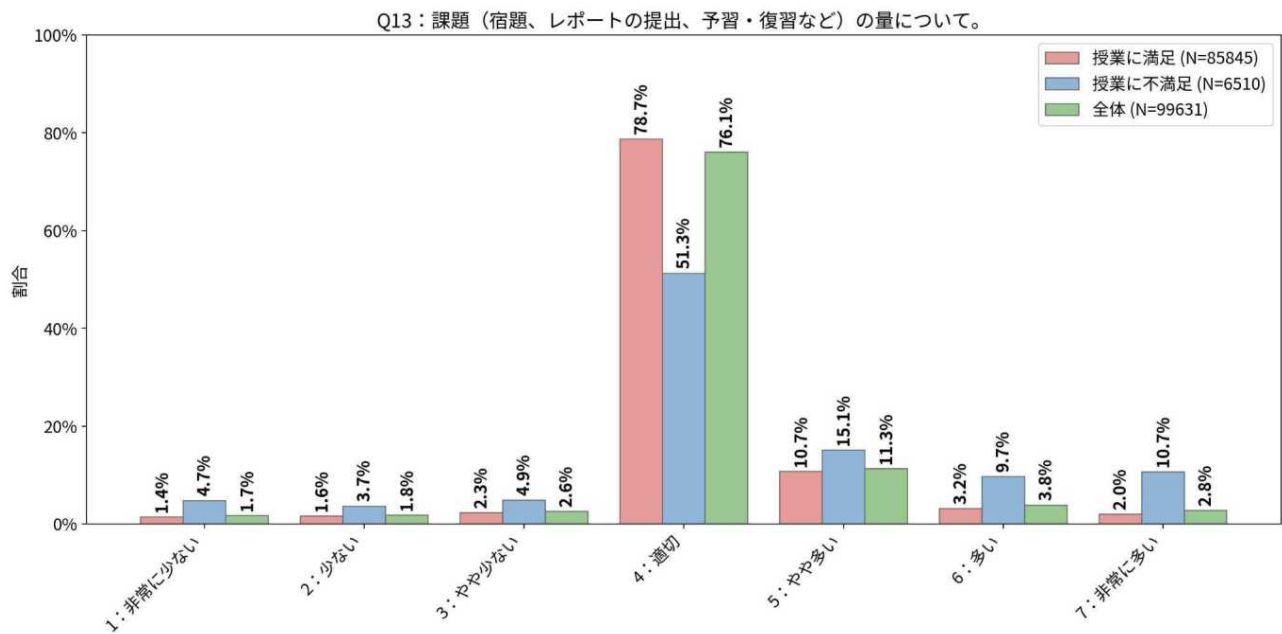
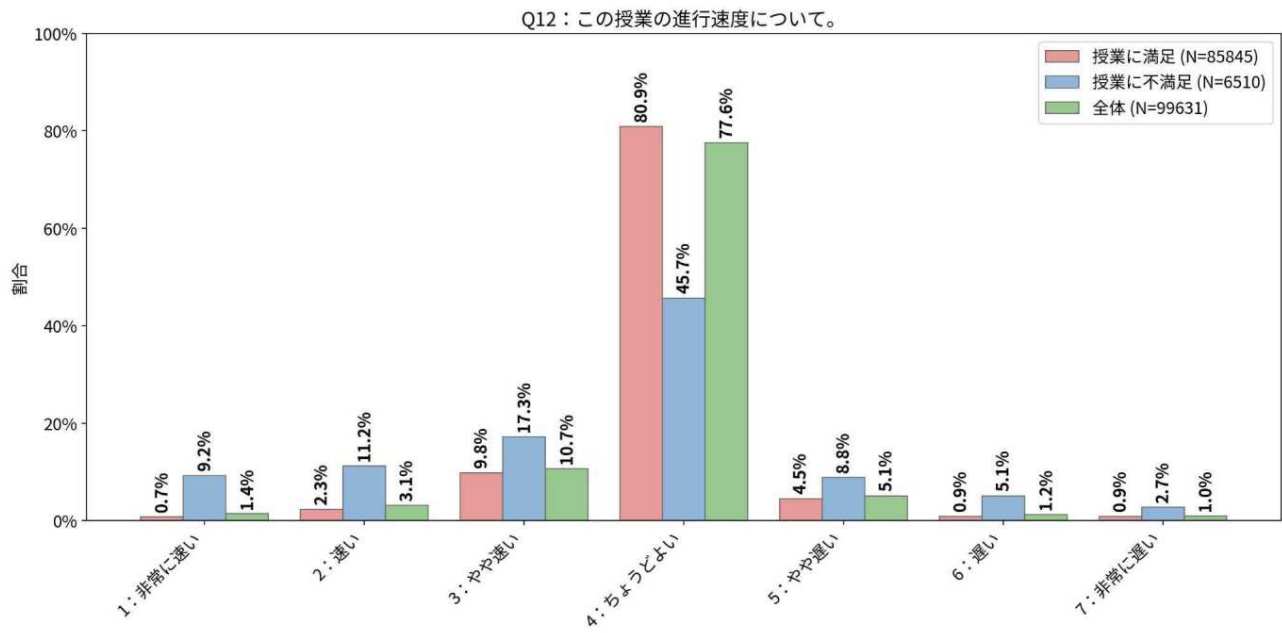
一方で出席率については、「8回以上欠席した」学生は、授業に不満な学生で多く、「全て出席した」学生は少ない様子が見受けられました。その中間回数を欠席した学生も、僅かですが差が見受けられます。



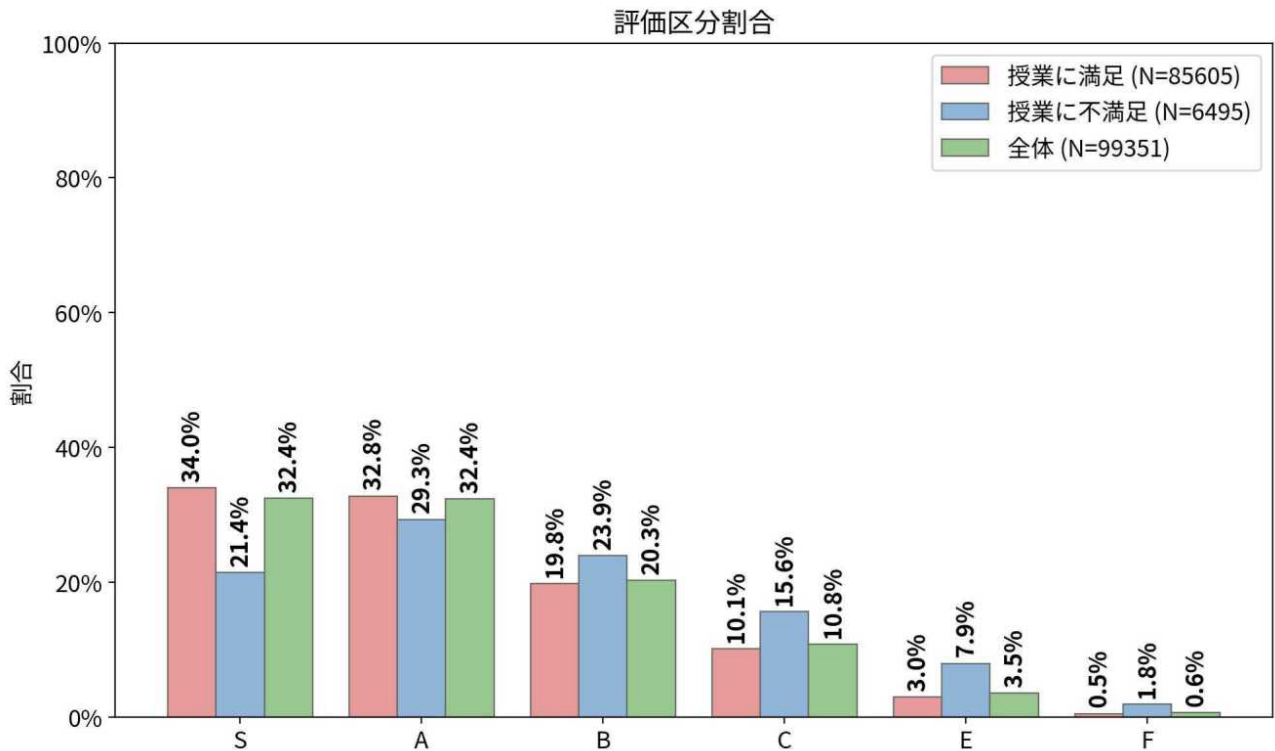
授業外学習時間も、授業に不満足な学生は「全くしなかった」割合が高くなっています。



授業の進行速度や課題の量については、授業に不満足な学生ほど適切とは感じていなかったようです。例えば進行速度については、授業に満足した学生群と比較し、授業に不満足であった学生群の方が、進行速度について「速い」「遅い」双方への指摘の割合が高い、すなわち「適切ではない」と感じられていることがうかがえます。



そして成績についても、不満足の学生の方が相対的に低い様子が見られました。



これらの結果を見ると、講義期間の途中で授業満足度を問うアンケートを実施すると、その学生の成績などがある程度分かるかもしれません。

2.7 授業満足度に基づく自由記述回答の分析

授業アンケートの設問15～18は全学部共通の自由記述設問であり、以下の内容を問うています。

- 設問15：「この授業に関して、良かったと思う点を記載して下さい。」
- 設問16：「この授業に関して、工夫・改善してほしいと思う点を記載して下さい。」
- 設問17：「【この授業について1回以上遠隔授業形式で受講したと回答した方のみ回答してください】この授業で担当教員が利活用したオンラインコンテンツ（資料、オンデマンド動画、Webexなどの双方向型ツールの使い方、manabaの使い方など）について、良かったと思う点を記載してください。」
- 設問18：「【この授業について1回以上遠隔授業形式で受講したと回答した方のみ回答してください】この授業で担当教員が利活用したオンラインコンテンツ（資料、オンデマンド動画、Webexなどの双方向型ツールの使い方、manabaの使い方など）について、工夫・改善してほしいと思う点を記載してください。」

この分析では、設問15と設問17を学生から見る当該授業の「高評価ポイント」、設問16と18を「工夫・改善ポイント」として取り扱います。

これらの設問について、ここまでの分析で使用した「授業形態」「オンラインか対面か」「クラス規模」「受講形態」の属性のうち、本報告では「授業形態」と「クラス規模」を属性として注目しました。さらに

これら2つの属性を「授業に満足／不満足」で区分した自由記述回答を抽出し、教員が即実践できそうな授業改善案を生成系AIを利用して整理・分析しました。

なおこの分析は、「教育力研究開発機構における生成系AI利用ルール」に基づいて、機構長（佐藤信行 法務研究科教授）の承認を経て、生成系AIツールであるGoogle NotebookLM（<https://notebooklm.google.com/>）を利用して行いました。また、本分析に使用したプロンプト（システムプロンプト）については、附録をご参照ください。

なお一部の授業形態については、回答数が0件だったか、ごく少数の回答しか集まらず、かつ科目を特定できる可能性があったため、掲載していない場合があります。また本節で記載する自由回答の記述は、明らかな誤字脱字を修正した上で、原則、原文のまま掲載しています。

ミニサマリー

- 高評価ポイントと工夫・改善ポイントは以下のように整理できる

高評価ポイント		
授業形態／ クラス規模	特徴と高評価ポイント	満足度を高めるポイント
講義科目	実務家・ゲストスピーカーの招聘、最新ニュースとの関連付け。図解や強調を用いた洗練された資料と、リアクションペーパーへの丁寧なフィードバック。	外部ゲストスピーカーの利用、資料の視覚化、授業冒頭5～10分で前回の質問に回答するインタラクションのルーチン化。
実験・製図／実習	理論の「実体験」化。教員やTAによる机間巡回と個別指導体制。	演習・実験時間中の教員・TAによる巡回指導を強化し、困りごとを先回りして把握する。
演習／卒論科目	学生主体のテーマ設定と、グループワーク・ディスカッションを通じた思考の深化。少人数ならではの密な指導。	発表に対し修正点だけでなく称賛を与え、議論を広げるための追加の問いを提供し、学生の思考をさらに深める。
実技科目	継続的な運動による健康維持とリフレッシュ。チームスポーツを通じた他学生との交流促進（友達作り）。	初心者と経験者それぞれに合わせた目標設定や声掛けを行い、定期的にチームを入れ替えて交流の幅を広げる。

外国語科目	ペアワーク等による実践的な言語使用の機会。間違いを恐れず発言できる心理的安全性の高い環境（教員が名前を覚えているなど）。	早期に学生の名前を覚え、積極的に指名する。授業冒頭に簡単なアイスブレイクを導入し緊張をほぐす。
極小規模（29人以下）クラス	一人ひとりの興味に基づく柔軟な授業展開。即時かつ詳細な個別フィードバック。	最終課題のテーマ設定を個別最適化し、学生の自主性を育む。
中規模（51～150人）クラス	講義（インプット）と演習・クイズ（アウトプット）のバランス。 responなどを用いた適度な「参加実感」。	毎回の授業で学生が必ず「自分の手を動かす時間」を設け、能動的な参加を促す。

工夫・改善ポイント

授業形態／ クラス規模	不満点と工夫・改善ポイント	満足度を高める改善案
講義科目	スライド・レジュメ・口頭説明の不一致、情報の詰め込みすぎ、文字を写す時間が確保されないことによる「書写化」。	スライドやレジュメのPDFを授業前日までに公開し、学生が思考に集中できるようにする。穴埋め式の場合は、穴埋め箇所を強調し誘導する。
実験・製図科目	TA間で採点基準やアドバイスが異なり、公平性に疑問がある。TAが不機嫌、質問への対応が不誠実など、学習環境の悪化。	教員・TA・学生が共有できるルーブリック（評価指標）を作成・公開し、採点基準の公平性を担保する。
演習科目	教員の雑談などが長く、グループワークや発表の準備時間が圧迫されている。発表の「丸投げ」で、専門的なフィードバックや補足解説が乏しい。	タイムマネジメントを徹底し、作業時間を確保する。学生の発表後に、教員が専門的な知見から必ず総括する時間を設ける。
外国語科目	単なる暗記や文法解説に終始し実用性がない。発音や回答を間違えた際	学生が「間違い」を恐れず発言できるよう、誤った発言に対しても「ナ

	に高圧的な態度をとられ、発言への恐怖心が生じる。	イストライ」の精神で寛容に捉え、丁寧に修正案を提示する。
大規模（151人以上）クラス	授業資料（動画など）の公開期間が短く復習できない。responのコピー・字数制限など、不正対策が真面目な学生の利便性を損ねている。私語による騒音など、授業環境の管理不足。	講義動画やスライドの掲載期間を少なくとも学期末まで延長し、WebexやGoogle Driveなどの動画共有に切り替える。試験範囲や評価基準の変更は、manabaのコースニュース等で必ず周知徹底する。私語を諫める、大きな声で話すなど基本的な授業運営を徹底する。

2.7.1 授業形態ごとに授業に満足している学生の特徴

授業に満足している学生の特徴として、授業形態ごとにポジティブな面を整理しました。

入カプロンプト

授業に満足している学生は、授業形態ごとにどのような点で良かったと思っている？

【講義科目】

<主な分析対象>

- Q15の回答数：13,887件（2,164科目）
- Q17の回答数：2,378件（649科目）

※ ここでは「授業形態ごと」に「授業に満足」の学生の回答数を示していますが、生成系AIが「クラス規模」に関してまとめたテキストファイルなど、別のファイルを参照していることもあるため、「"主な"分析対象」として回答数を示します。以下も同様です。

<高評価ポイント>

● 実務家やゲストスピーカーの招聘

教員自身の研究成果や教科書上の理論にとどまらず、社会の第一線で活躍する実務家やゲストスピーカーを招いた講義、あるいは最新の時事ニュースと関連付けた解説が非常に高く評価されているようです。

[自由記述の回答例]

- 幅広い専門知識を持つ方々から学ぶことができるので、知見が深まった。
- 実務家の先生の経験を多く拝聴することができ、非常に楽しい授業だった点。
- 企業の役員の方を呼んで行った講演会はとても満足度が高かった。あのような機会をもう少し増やして欲しいと思った。
- ゲストスピーカーの講義はとても興味深かった。面白くわかりやすく本当に楽しい時間でした。

● 洗練された資料と丁寧なフィードバック

レジュメやスライドが単なる文字の羅列ではなく、図解やイラスト、重要箇所の強調がなされていることで、学生の理解を助けている様子がうかがえます。また、毎回のコメントペーパー（リアクションペーパー）に対して、次の冒頭で丁寧に回答・解説する姿勢が、学生との対話を生んでいるようです。

〔自由記述の回答例〕

- レジュメがとてもわかりやすい。大事なところに二重線を引いており、その回の学習で何を重視しているかが一目でわかる。授業のペースも速すぎず、遅すぎず、ちょうどよかった。
- パワーポイントが図式と文章がバランス良く使われていて、理解が促進された。
- 図式や仕組みを明瞭に説明しており、受講者の理解が深まるような講義であった点。
- 毎回の課題の回答が毎回あってよかったです。
- 毎授業の冒頭に、前回のリアクションペーパーの質問に非常に丁寧に答えてくださっていた点。匿名にして読み上げてくださるおかげで、少しでも気になったことは質問できたし、丁寧な回答を毎回楽しみにしていた

【講義科目】で満足度を高めるために：満足度が高い学生の声から

- 外部ゲストスピーカーの利用：外部の視点を入れることで、授業の鮮度が高まることが期待できます。
- 資料の視覚化：スライドやレジュメに「ここが重要」という印（二重線や色付け）を明示すると、学生が学習する際のキーポイントを判断しやすくなるでしょう。
- インタラク션을重んじる：授業の最初の5～10分を「前回の質問への回答」に充てることで、学生が抱く「一方的な授業である」という感覚を低減できるでしょう。もちろん、「質問する」という時間や手段を用意する必要もあります。

【実験・製図／実習科目】

＜主な分析対象＞

- Q15の回答数
 - 実験・製図科目：170件（35科目）
 - 実習科目：20件（8科目）
- Q17の回答数
 - 実験・製図科目：9件（4科目）
 - 実習科目：なし

＜高評価ポイント＞

● 理論の「実体験」化とTAによる手厚い個別支援

座学で学んだ物理現象や技術を、実際に自分の手と目で確認できるプロセスに学生は強い満足感を抱いています。特に、大人数の授業では難しい、個別の疑問に対して教員やTAが机を回って親身に指導する体制が、学習の挫折を防いでいるようです。

〔自由記述の回答例〕

- 今まででは物理現象を教科書に記載された絵などでしか見ることはできなかったが、実際に自分の目で確かめることができて良かった。
- Texを初めて扱ったがとても丁寧でわかりやすかった。技術文書の作成について、重要な点を何度も繰り返して言ってもらえたので、しっかりと能力の習得ができた。
- 実際に足を運んで実習できてよかったです。実際に野外実習に行くことで、新たな発見が多くあり、充実した授業だった。
- アシスタントが丁寧に対応してくれた点。説明が論理的で理解しやすかった。また、グループワークの時間で理解したことをアウトプットすることができた。
- パソコン作業がとても苦手な私ですが、毎回丁寧に優しく教えてくれて本当に助かりました。全体で何度も説明していたことを、個別でも優しく教えてくれて優しさがしみしました。

【実験・製図／実習科目】で満足度を高めるために：満足度が高い学生の声から

- **巡回指導の強化**：演習や実験の時間中、教員とTAが積極的に机間巡回を行い、「困っていることはないか」などと声をかけるだけで、学生の安心感と満足度は劇的に向上するでしょう。

【演習／卒論科目】

＜主な分析対象＞

- Q15の回答数
 - 演習科目：1,796件（453科目）
 - 卒論科目：105件（26科目）
- Q17の回答数
 - 演習科目：70件（47科目）
 - 卒論科目：7件（4科目）

＜高評価ポイント＞

● 能動的な参加と他者の意見を通じた思考の深化

学生が主体となってテーマを設定し、グループワークやディスカッションを行う形式が「自分の頭で考える力」を養うとして好評なようです。また、自分とは異なる背景を持つ他者の意見に触れることで、多角的な視点を得られる点や、少人数ならではの密な指導に価値を感じて居る様子がうかがえます。

〔自由記述の回答例〕

- 各自の興味に合わせ、ゼミ形式であることを活かしながら学ぶことが出来た。4年生と一緒にいるので、来年の自分のスケジュール感も理解することができ、大変良かった。

- 学生の発表に対して、先生がフィードバックを送るという形式は毎回テーマが変わるため、斬新で興味ぶかった。
- 作品やテキストを見て発表することで、自分の考えと他の人の考えを共有できる点。
- 卒業論文を書くうえで、テーマの方向性に悩んだり、参考文献や書き方が分からなかったりした際に、非常に丁寧に寄り添ってくださり、自分で卒論を書き進める指針を一緒に考えてくださった。
- 哲学対話はやったこと無かったし、そもそも答えのない話を1時間以上することも無かったので新鮮で面白かった。みんなが考えていることが知れて成長に繋がった。

【演習／卒論科目】で満足度を高めるために：満足度が高い学生の声から

- 発表へのポジティブなフィードバック：学生の発表に対し、単に修正点を指摘するだけでなく、「その視点は面白い」といった称賛と、議論を広げるための追加の問いを提供することで、さらに学生の思考を深めることに繋がるでしょう。

【実技科目】

＜主な分析対象＞

- Q15の回答数：438件（157科目）
- Q17の回答数：40件（30科目）

＜高評価ポイント＞

● 健康維持の習慣化と他学生との交流促進

忙しい大学生活の中で、週に一度リフレッシュし、健康を意識できる貴重な時間として捉えられています。初心者でも楽しめるような難易度設定や、チームスポーツを通じた「友達作り」の機会が提供されている点が高く評価されているようです。

〔自由記述の回答例〕

- 1週間に1度継続的な運動をすることで、生活リズムの維持ができている点。お友達ができた！
- 初心者にも優しい授業内容だった点。体育は人それぞれ技量が違い評価しづらい点をよく評価していた。
- ペアでのラリー課題や団体戦の練習によって受講者同士で考えて戦略を立てる機会が多く、参加しなくなるような授業づくりをしていることがよくわかった。
- 音楽に合わせてボクササイズをするのがとても楽しかった。先生とみんなと一緒に楽しくできて毎授業楽しかった。
- 運動が苦手な人でも楽しんで運動できるような内容が多くあった点。

【実技科目】で満足度を高めるために：満足度が高い学生の声から

- **習熟度別のアドバイス**：初心者と経験者が混在する場合でも、それぞれに合わせた目標設定や声掛けを行い、「運動を楽しむ」という共通目標を明確にすると良いでしょう。また、定期的にチームを入れ替えることで、学生同士の交流の幅を広げることも期待できます。

【外国語科目】

＜主な分析対象＞

- Q15の回答数：8,354件（2,361科目）
- Q17の回答数：909件（499科目）

＜高評価ポイント＞

● 実戦的なコミュニケーションと心理的安全性の高い環境

単なる文法の暗記ではなく、ペアワークやグループワークを通じて実際にその言語を使う機会が多いことが喜ばれているようです。また、教員が学生の名前を覚えたり、間違いをあたたかく受け止めたりすることで、学生が「間違えても大丈夫」という安心感を持って意欲的に発言できている様子もうかがえました。

〔自由記述の回答例〕

- 興味の持てる文章でのリーディング、さらにライティング、スピーキングの練習まですることができたところ。
- 授業の始めにペアで英語でテーマに沿って会話するのは、英語で話すことになれる時間になってとても有意義だったと思うし、クラスの人と仲良くなるきっかけにもなったと思う。
- 先生が完璧じゃなくて良いということを強調してくださるおかげで、英語で話すことや文章を書くことに対して少し前向きになれたと思います。
- 先生が早い段階から全員の顔と名前を一致させていたのがとてもうれしかったです。大学に入ってから先生に名前を覚えてもらえると思っていなかったのがびっくりしました。
- 間違ったことを言ってもすぐに先生が丁寧に説明してくれるのでありがたかった。

【外国語科目】で満足度を高めるために：満足度が高い学生の声から

- **名前を呼ぶ・アイスブレイクの導入**：早い段階で学生の名前を覚え、授業中に積極的に名前を呼んで指名すると、親近感が沸き、コミュニケーションが大事な外国語科目でより学生のやる気を引き出せるかもしれません。付随して、授業冒頭に5分程度の簡単なコミュニケーション活動（アイスブレイク）を入れ、緊張をほぐすことも効果的でしょう。

2.7.2 クラス規模ごとに授業に満足している学生の特徴

授業に満足している学生の特徴として、クラス規模ごとにポジティブな面を整理しました。

入カブロンプト

授業に満足している学生は、クラス規模ごとにどのような点で良かったと思っている？

【極小規模（29人以下）クラス】

＜主な分析対象＞

- Q15の回答数：9,495件（2,806科目）
- Q17の回答数：818件（524科目）

＜高評価ポイント＞

● 学生の主体性を尊重した深い対話と個別指導

極小規模クラスでは教員と学生、あるいは学生同士の距離が近く、一人一人の興味関心に基づいた柔軟な授業展開がなされています。学生が自らテーマを選択して調査・発表する機会が多く、それに対する教員からの即時かつ詳細なフィードバックが、学習意欲と理解度を大きく高めているようです。また、少人数ならではのアットホームな雰囲気の中で、自分の意見を否定されずに深められる「心理的安全性の高さ」が満足度につながっています。

〔自由記述の回答例〕

- 自らが調べたい内容を調べてグループでまとめる授業であったため、主体的に学ぶことができた。
- 少人数の授業のため、感じた疑問についての回答の時間を長めに取ってくださったこと。
- 少人数ならではのと思うが、宿題の発音に対するフィードバックが非常に詳しくためになるものであった。
- 宿題を個別に確認してくれるので、自分の書いた文が正しいのかどうかの反応がわかること。
- 専門演習の中でも、非常に少人数であったことで教授からのフィードバックを頂きやすく自分の経営理論に関する知識や説明力を向上させることができた

【極小規模クラス】で満足度を高めるために：満足度が高い学生の声から

- **個別最適化されたテーマ設定**：最終課題や発表のテーマを完全に自由化し、学生一人一人の関心に寄り添った文献紹介やアドバイスを個別に行うことで、学生の自主性などを育み、自己調整学習を促進できる可能性があります。ただし（卒論等を除き）テーマを個別化することで、授業のコントロール難易度は大きく上がることには注意が必要です。

【小規模（30～50人）クラス】

＜主な分析対象＞

- Q15の回答数：3,540件（942科目）
- Q17の回答数：449件（193科目）

＜高評価ポイント＞

● 協働学習を通じたスキルの習得と人間関係の構築

小規模クラスでは、グループワークやディスカッションが活発に行われており、他者の多様な視点に触れることで思考を深めるプロセスが高く評価されています。特に語学やプレゼン、実習科目において、実際に「使う」「話す」機会が豊富に確保されていることが、能力向上を実感させる大きな要因となっているようです。また、クラスメイトと仲良くなるきっかけが多く、互いに教え合える環境も満足度を支えています。

[自由記述の回答例]

- グループ活動により、周りの人とのコミュニケーションを取ることができて良かった。
- 授業の始めにペアで英語でテーマに沿って会話するのは、英語で話すことになれる時間になってとても有意義だったと思うし、クラスの人と仲良くなるきっかけにもなったと思う。
- 英語を喋る機会が多く、自分で考えて英語を喋ることができた。
- クラスメイトとの話し合いの機会が多く設けられていて、自分にはない見方を学べた。
- 先生が学生が仲良くできるよう毎回テーマが異なる自己紹介など全員が楽しく参加できる企画をしてくださったおかげで、別専攻でもたくさん友達ができました。

【小規模クラス】で満足度を高めるために：満足度が高い学生の声から

- **ランダムなグループ替えの実施**：ペアワークやグループワークを行う際、毎回、あるいは数回の授業に一度、ペアやグループを入れ替えることで、できるだけ多くの学生同士が対話できるよう工夫すると、より広範な人間関係の構築に繋がります。

【中規模（51～150人）クラス】

<主な分析対象>

- Q15の回答数：5,769件（920科目）
- Q17の回答数：527件（217科目）

<高評価ポイント>

● 講義と演習のバランスと即時的なアウトプット

中規模クラスでは、教員による解説（インプット）と、その後の問題演習やクイズ（アウトプット）のサイクルが確立されていることが支持されています。授業内で実際に手を動かして問題を解く時間が設けられており、分からない箇所をその場ですぐに質問できる体制が、理解の定着を助けているようです。またresponなどのツールを用いて、大人数ほど匿名すぎず、少人数ほど目立ちすぎない適度な「参加実感」を得られているのも特徴です。

[自由記述の回答例]

- 毎授業の洗練され要約された短い講義と十分な演習時間によって、理解と活用を過不足ない素晴らしいバランスで身につけることができた。
- 授業が講義だけではなく、合間に学んだ場所に関する問題を復習のような形で出していたところ。
- 全て対面での授業だったので、わからない部分をすぐ先生やTAに聞ける環境だったのがよかった。
- 授業の途中で練習問題を挟んでくれるので、理解しやすかった。

- 講義中にノートを取る時間をとらせてもらい、授業動画の公開で講義内容を見返しやすかった。

【中規模クラス】で満足度を高めるために：満足度が高い学生の声から

- **演習時間の確保**：毎回の授業で学生が授業内で必ず「自分の手を動かす時間」を設けることで、一方向に偏らない授業を展開するとともに、能動的に授業に参加する意欲を高めることが期待できます。

【大規模（151人以上）クラス】

＜主な分析対象＞

- Q15の回答数：5,966件（536科目）
- Q17の回答数：1,619件（299科目）

＜高評価ポイント＞

● 小テストによる評価機会の分散化と擬似的な対話

大規模クラスでは、視覚的に見やすく整理されたスライドや、配布資料の充実度が満足度に直結しています。学生は、成績の決定要因が最終試験の一発勝負ではなく、毎回の小テストやリアクションペーパーが考慮させる、言わば「努力が報われるシステム」を好んでいる様子がうかがえます。さらに、教員が学生のコメントを次の回で丁寧に紹介・回答する姿勢が、心理的な距離を縮めているという記述が見受けられます。

〔自由記述の回答例〕

- 小テストが毎回あり、自身の毎回の授業内容の理解度をある程度図れるし、その解答についても次の授業の冒頭で解説が十分になされている。
- 先生が質問を頻繁に投げかけてくださるので、自分が参加している実感が持ちやすく、集中力が持続した。
- 毎授業の初めに生徒のコメントへのフィードバックがあって良かったです。
- 受講生のコメントに対してフィードバックがあったのが嬉しかったです。自分のコメントが取り上げられると、教授がしっかりコメントを見ていることを実感できて、モチベーションになりました。

【大規模クラス】で満足度を高めるために：満足度が高い学生の声から

- **フィードバックのルーチン化**：授業冒頭で、前回のリアクションペーパーで出た良い質問や興味深い意見の紹介にあて、学生との擬似的な対話を演出することで、より授業への興味を引き出すことが可能でしょう。

2.7.3 授業形態ごとに授業に不満足な学生の特徴

続いて、授業に不満足な学生の特徴として、授業形態ごとにネガティブな面を整理しました。

入力プロンプト

授業に不満足な学生は、授業形態ごとにどのような点を工夫・改善してほしいと思っている？

【講義科目】

<主な分析対象>

- Q16の回答数：1,531件（717科目）
- Q18の回答数：162件（115科目）

<工夫・改善ポイント>

● 資料の視認性向上と口頭説明との連動

配布資料（レジュメ）と投影スライド、そして教員の話が一致していないことへの不満が目立ちます。特に情報の詰め込みすぎや、文字が小さすぎて読めない、あるいは板書を写す時間が確保されないまま次に進むといった点が、学習意欲を削ぐ要因となっているようです。

[自由記述の回答例]

- スライド1ページあたりの文量が多いのに、進むスピードが早く、レジュメに写しきれない。あとはレジュメの板書スペースが小さい。
- パワーポイントが見つらい。プリント、パワーポイント、話す内容が一致しておらず、何が言いたいかわからない。
- スライドの内容をすべて書き写すのは非効率。しかも「書き写すこと」や「正しく写せているかの確認」に意識が向いてしまい、肝心の講義内容の理解が不十分になっています。
- レジュメを配布しないため、無意義な時間が続く。…資料にないことをたくさん話して下さるのだが、ほとんど書いていないので、メモが追いつかない。

【講義科目】で満足度を高めるために：満足度が低い学生の声から

- **資料の事前配布**：スライドやレジュメのPDFを、遅くとも授業前日までにmanaba等で公開し、学生が書き写すことなく、聞くこと／考えることに集中できるようにすると、より密度の濃い授業を展開できるでしょう。
- **穴埋め箇所の明示**：レジュメを穴埋め式にする場合は、投影スライド上でその箇所を色付けや枠囲みで強調し、学生が迷わないように誘導すると、書き写すことへのハードルが下がります。

【実験・製図科目】

<主な分析対象>

- Q16の回答数：51件（25科目）

- Q18の回答数：4件（3科目）

<工夫・改善ポイント>

● 指導の標準化とTAの質管理

実験・製図科目では、担当する教員やTAによって採点基準やアドバイスの内容が異なることへの不満が非常に多く見られます。また、TAが「早く帰りたい」といった態度を見せたり、質問に対して不誠実な対応をしたりすることが、学生の学習環境を著しく悪化させています。

[自由記述の回答例]

- TAの間での連絡が不十分で、採点基準の変更などが共有されていなかったことにより修正回数が増えてしまった。
- 担当するTAによって修正される内容が異なっていた。せめてTA間で採点基準を共有して、誰かが貧乏くじを引かないようにしてほしい。
- 質問したら「去年の流用だからわからない」と言われた。質問しづらい空気を醸成した。
- 採点基準がTAごとに異なっているように感じられ、公平性に疑問があります。

【実験・製図科目】で満足度を高めるために：満足度が低い学生の声から

- 評価基準の明文化：教員・TA・学生の三者が共有できる「ルーブリック（評価指標）」を作成・公開し、誰が採点しても同じ結果になるように徹底すると、公平性の担保に繋がります。

【演習科目】

<主な分析対象>

- Q16の回答数：166件（103科目）
- Q18の回答数：3件（3科目）

<工夫・改善ポイント>

● 講義と作業時間のバランス適正化と「丸投げ」の回避

「演習」でありながら教員の講義（特に雑談や過去の話）が長すぎて、グループワークや発表の準備時間が圧迫されていることへの不満が顕著です。また、発表を学生に任せるだけで教員からの専門的なフィードバックや補足解説が乏しい場合、学生は「わざわざ授業料を払って受けている意味がない」と感じてしまいます。

[自由記述の回答例]

- 全体的に遅れ気味なのに作業開始前に先生が過去に話した内容を40分以上お話をされるため十分な作業時間がとれない。
- プレゼンテーションを生徒に丸投げし、授業の後半1/3は講義ではなくプレゼンテーションを発表させるだけなのは改善していただきたい。

- 添削が毎回同じ言葉で返ってくるのでまったく分からない点。グループワークにおける個別の評価が入らない点。
- 授業内容に関しての説明が一切なかった。プレゼンだけでは、授業内容をすべて理解するのは難しい。
- 発表したあとにフィードバックはもらえたが、あっているのか間違っているのかよくわからなかった。先生の答えも知りたいと思った。

【演習科目】で満足度を高めるために：満足度が低い学生の声から

- **タイムマネジメントの徹底**：「作業する時間を〇〇分は確保する」というように、授業内容に合わせて時間をコントロールすることで、学生にとって無用と思われる時間の軽減を図ることができそうです。
- **教員による「まとめ」の実施**：学生の発表後に、必ず専門的な知見から、発表の学術的な意義や実社会との関連を総括する時間を設けて、プレゼンだけに終始しない授業展開を心がけると良いでしょう。

【実技科目】

＜主な分析対象＞

- Q16の回答数：9件（9科目）
- Q18の回答数：なし

＜工夫・改善ポイント＞

● 心理的安全性の確保と一貫性のある指導

運動技能の優劣を問う場面において、教員の言葉遣いが威圧的であったり、学生を馬鹿にするような態度をとったりすることへの恐怖や反発が見られます。また、シラバスにない急なルールの変更や、女子・初心者への配慮の仕方がかえって不公平感を生んでいるケースもありました。

〔自由記述の回答例〕

- 「教員の言葉遣いが人を不快にさせるようなものだったので改善してほしい。…「なんでできないの？」「話聞いてた？」などと強い口調で言われるのは非常にストレスが溜まる。
- 女子と男子を完全にわけることができないのであれば女子向けにルールを変えるのをやめてください。…チームで話し合って納得のうえでの戦略を立てられる時間がないのならば、ルール変更は悪手だと思います。
- 学生の進路選択や人格を否定するような言動は慎んでほしい。
- 時々、口調が高圧的だと感じる部分があった。また、話がかなり長くなることがあり、特に2限の場合は昼食を食べられなくなる人も多い。

【実技科目】で満足度を高めるために：満足度が低い学生の声から

- **ポジティブな声掛け**：技能の未熟さを指摘するのではなく、挑戦した姿勢や改善したプロセスを具体的に褒めるように意識することが大切です。

【外国語科目】

<主な分析対象>

- Q16の回答数：706件（455科目）
- Q18の回答数：66件（54科目）

<工夫・改善ポイント>

● 実用性の欠如と高圧的なコミュニケーション

単なる暗記や翻訳、文法解説のみに終始する授業に対し、学生は「高校までと変わらない」「AIで代替可能」と感じ、満足度を下げています。また、発音や回答を間違えた際に鼻で笑ったり詰め寄ったりする教員の態度が、「発言への恐怖心」を生み、語学学習に不可欠なアウトプットを阻害している様子がうかがえます。

[自由記述の回答例]

- 本文の内容を暗記させてテストする理由がわからない。成長しない。問題の回答時間が少ない。
- 英語での指示が適切に伝わらなかった際に声を荒げるなど、学生を委縮させるような態度は改善してほしい。

【外国語科目】で満足度を高めるために：満足度が低い学生の声から

- **「間違い」の歓迎**：学生が「ここは間違えるための場所である」と捉えることができるような授業運営が大切です。誤った発言に対しても「ナイストライ」の精神で寛容に捉え、丁寧に修正案を提示しましょう。

2.7.4 クラス規模ごとに授業に不満足な学生の特徴

授業に不満足な学生の特徴として、クラス規模ごとにネガティブな面を整理しました。

入力プロンプト

授業に不満足な学生は、クラス規模ごとにどのような点を工夫・改善してほしいと思っている？

【極小規模（29人以下）クラス】

<主な分析対象>

- Q16の回答数：657件（465科目）
- Q18の回答数：58件（49科目）

<工夫・改善ポイント>

● フィードバックの迅速化と公平な指導体制

少人数の利点であるはずの個別指導において、模範解答の提示が遅いことや、一部の学生の学習不足をクラス全体への叱責に繋げるなど、心理的安全性を損なう対応に不満が集中しています。また、他クラスとの進度の差や、教材費の負担感、オンライン授業の運用についても改善が求められているようです。

[自由記述の回答例]

- 誰か学習の足りない学生がいると他の真面目に学習した学生にも飛火して怒るのはやめて欲しかった。
- 中間試験の模範解答を要求した際、対応に2週間以上を要した。中間試験の解答をテスト返却と同時に配るとより学習しやすいと思います。
- レポート課題について、模範解答を提示して欲しいです。模範解答が提示されないまま次の課題に移ってしまうため、正しい理解ができているか確認できないことが不便でした。
- なんで先生はオンラインなのに僕達は教室に来なければいけないのか。僕達も教室に来させずに家でオンライン授業をさせるべき。
- 購入させられた教材費が高すぎる。いくらなんでも1万円近くの教材を強制的に買わされるのは納得がいかない。

【極小規模クラス】で満足度を高めるために：満足度が低い学生の声から

- **模範解答の即時公開**：課題返却時、または提出締め切り直後にmanaba上で模範解答や解説資料を公開し、学生が自身の誤りをすぐに振り返れるようにすると、自学の意欲が高まるでしょう。
- **個別指導の徹底**：個々の学生の遅れについては、全体の前で叱責するのではなく、個別の面談やメッセージ機能を通じて指導し、クラス全体の士気を下げないよう配慮すると良いでしょう。

【小規模（30～50人）クラス】

<主な分析対象>

- Q15の回答数：342件（195科目）
- Q17の回答数：26件（22科目）

<工夫・改善ポイント>

● デジタル資料の品質向上と実践的なレクチャーの充実

オンライン併用時やPCを用いた演習において、資料の視認性の悪さ（フォント、構成）や、操作解説の不足に対する不満が目立ちます。特にプログラミング等の実技を伴う内容では、単に説明を聞くだけではなく、授業内での実践的な練習時間を確保してほしいという要望が強いです。

[自由記述の回答例]

- 音声形式ではなく、動画形式で授業を配信してほしい。

- テキストのフォントサイズ、ページ構成、ハイライト情報の表示などにかく見づらいし分かりづらいです。…100分間テキストボックス内容を見るだけの授業であるのに、そのテキストの内容もとても面白くありません。
- rscriptに関する授業資料を用意してほしい。rscriptの解説が少ないため、一つ一つ説明してほしい。
- 実践的なプログラミングを活用した練習を授業内で実施してくれればいいものの全くそのようなことはせず、ずっとPCに向かって話しているだけ。
- 音声途切れたり、映像が映らなかったりと、授業環境が悪く、率直に言って授業体験は悪かった。…授業内では返事すらなかったので問題を認識しているかもわからなかった。

【小規模クラス】で満足度を高めるために：満足度が低い学生の声から

- **資料の視覚的リニューアル**：100分間の集中を維持できるよう、テキストのみの資料は避け、図解やスクリーンショットを多用した視認性の高いスライド・PDFを作成すると良いでしょう。
- **トラブルへの即時レスポンス**：オンライン配信中に音声や映像のトラブル指摘があった場合、授業を一旦止めて確認し、チャット等で状況をアナウンスするなどの誠実な対応を徹底します。PCに不慣れであっても、学生への真摯な対応が重要です。

【中規模（51～150人）クラス】

＜主な分析対象＞

- Q15の回答数：736件（373科目）
- Q17の回答数：56件（44科目）

＜工夫・改善ポイント＞

● 「書写」に陥らないレジュメ設計とハイブリッド対応の改善

中規模クラスでは、板書の書き写しに終始してしまう穴埋め式資料への不満が多く見受けられました。書き写すことに専念するあまり、思考や理解が追いつかない現状があります。また、Macユーザーへの配慮や、オンライン回と対面回の時間配分の最適化が求められています。

〔自由記述の回答例〕

- 穴埋めのレジュメは復習としてもやりにくくて仕方なく、授業時間内も書写の時間となっておりつまらない。…せっかくの授業時間を使って文字を写すだけというのは時間の使い方として無駄・もったいないので、普通にすべて記入したレジュメを配布すればいいと思う。
- オンライン授業の内容を対面授業の時に復習する時間が長く、あまりオンライン授業をしている意味がないと感じました。
- 板書とプリントが少し分かりにくい。新しく書いたものを消すのをやめて欲しい。古いのから消して欲しい。

- 教授の話がとても聞き取りづらい。また、こちらの理解が追い付かないまま次々といってしまうため、内容の理解がしづらい。

【中規模クラス】で満足度を高めるために：満足度が低い学生の声から

- **レジュメ形式の見直し**：重要な単語のみを穴埋めにするのではなく、論理の骨子や複雑な図表は最初から記載したレジュメを配布し、学生が、教員の話聞いて思考を深めるためのメモスペースを確保すると良いでしょう。
- **授業構成の見直し**：反転授業などでオンライン授業を前提とした対面授業を行う場合、オンライン動画に関する復習の時間は冒頭10分程度に留め、対面授業ならではの応用演習や質疑応答に多くの時間を割くように構成を組み直すことを検討してみましょう。

【大規模（151人以上）クラス】

＜主な分析対象＞

- Q15の回答数：730件（278科目）
- Q17の回答数：95件（60科目）

＜工夫・改善ポイント＞

● 資料アクセスの継続性と納得感ある成績評価／授業環境の管理

大規模クラスでは、資料の公開期間が短すぎることや、授業の環境に関する不満が多く見受けられます。また、respon等を用いた出席確認や小テストにおいて、不正対策が真面目な学生の利便性を損なっている点や、成績評価の不透明さの改善が強く望まれています。

〔自由記述の回答例〕

- 授業資料（特に動画）が掲載終了となる期間が非常に短く、十分に復習や学習に活用する時間が確保できない場合があります。
- 黒板の字を丁寧に書いてほしいです。
- 毎回の授業動画に広告がついていた。授業への集中が妨げられるのでやめてほしい。
- レスポンのコピペ制限、もしくは字数制限を変えてほしい。
- 授業中に雑談をする生徒のせいで最前列でも講義が聞こえません。…厳しく注意するか、雑談が気にならないほどの大教室にするか、いずれにせよ騒音は真面目に授業を聞く生徒の邪魔になります。
- 試験範囲の発表である。冬休み前最後の授業では冬休み中にテスト範囲を発表すると言っていたのに一向に発表されない。…ちゃんとテスト範囲は教えないと学生の負担がおかしくなる。

【大規模クラス】で満足度を高めるために：満足度が低い学生の声から

- **資料掲載期間の延長**：試験準備のために復習できるよう、講義動画やスライドの掲載期間を少な

くとも学期末まで延長します。また動画を共有する際は、Webex、Teamsの録画機能やGoogle Drive、OneDrive等のファイルストレージを用いた動画共有に切り替えると良いでしょう。

- **アナウンスの徹底**：試験範囲や評価基準に変更がある場合は、授業中の口頭説明だけでなく、manabaのコースニュース等で必ず文章として残し、全学生に周知を徹底します。
- **授業環境の改善**：学生の私語を諫める、はきはきと大きな声で話すといった、基本的な授業運営を粛々とこなすことを徹底しましょう。授業環境の悪化の度が過ぎると、授業崩壊に繋がってしまいます。

2.7.5 小括

自由記述から、全般的に以下のようにまとめることができます。これらは、授業形態やクラス規模に関わらず実践可能なポイントですので、ぜひ秋学期以降の授業に取り入れてみてください。

良かったと評価された点

- 様々な実体験ができること
- 個別に支援を受けられること
- 能動的な参加や対話を促されること
- 心理的安全性が高いこと

工夫や改善を行うと良い点

- 資料の質（内容や読みやすさなど）を高めていく
- 授業中の発話内容と資料が連動するように授業を展開する
- 教員が高圧的な態度をとらないようにする
- 実態も、学生から見える部分も、指導体制の公平さが担保されるようにする

3. おわりに

本報告では、2025年度に実施された授業アンケートを対象に分析を行いました。今年度は、クラウド型LLMを利用した自由記述の分析を行い、前年度以上に自由記述のコメントを精度良く抽出し、より効果が見込める授業改善の直接的なヒントを探れたのではないかと思います。

本報告は、あくまで全学的な傾向を捉えたものであり、学部別の傾向まで詳らかに調査したものではありません。全学的な傾向と学部や専攻ごとの傾向は、各教育組織の特性により異なることが予想されます。また、より詳細なデータを加えた分析、例えば学生自身の特性などを踏まえた分析により、さらにカリキュラム改善などにつながる議論が期待されます。本報告を基に、ぜひ学部の中でより深い分析を進めていただき、因果関係などを見出し、教育改善に向けた議論を深めていただければ幸いです。

附録

2.7節の自由記述分析では、回答の長さを「長め」に設定した上で、以下のシステムプロンプトをGoogle Notebook LMに与えました。

このノートブックには、学生が回答する授業アンケートの自由記述の結果がテキストファイルとしてソースに保存されています。

この自由記述の結果に基づいて、大学の授業を改善するために、即座に教員が行動に移すことができる実践案を提案することが、このノートブックの利用における至上目標です。

この目的を達成するために、有用と思われる自由回答の記述を、トピックとして整理してください。

ソースについて

ソースファイルは`{学部}\_{属性}\_{設問番号}\_{授業への満足度}.txt`というファイル名がついています。

- 学部：ここに表示されている学部から収集したアンケート結果。`（全学部）`と表示されている場合は、全学部から収集したアンケート結果です。

- 属性：アンケートに回答した授業のメタ情報を示します。以下の4種類あります。

- `授業形態`：回答した授業の形態。講義／実験・製図／実習／演習／実技／外国語／卒論科目の7種類に分かれている。

- `オンライン対面`：「対面授業」か「オンライン授業」かの別。

- `クラス規模`：その授業の履修者数に応じて、極小規模クラス／小規模クラス／中規模クラス／大規模クラスの4種類に分かれている。

- `受講形態`：回答した学生の受講形態。対面受講／ハイブリッド受講／遠隔受講の3種類に分かれている。

- 設問番号：Q15、Q16、Q17、Q18の4つあります。それぞれ、どの設問に回答した結果がまとめられているか示します。設問内容は以下の通りです。

- Q15：この授業に関して、良かったと思う点を記載して下さい。

- Q16：この授業に関して、工夫・改善してほしいと思う点を記載して下さい。

- Q17：【この授業について1回以上遠隔授業形式で受講したと回答した方のみ回答してください】この授業で担当教員が利活用したオンラインコンテンツ（資料、オンデマンド動画、Webexなどの双方向型ツールの使い方、manabaの使い方など）について、良かったと思う点を記載してください。

- Q18：【この授業について1回以上遠隔授業形式で受講したと回答した方のみ回答してください】この授業で担当教員が利活用したオンラインコンテンツ（資料、オンデマンド動画、Webexなどの双方向型ツールの使い方、manabaの使い方など）について、工夫・改善してほしいと思う点を記載してください。

- 授業への満足度：回答した学生が授業に満足していたかどうかを、`授業に満足`と`授業に不満足`の2種類に区別しています。

テキストファイルの中身について。

アンケート結果が、授業の属性に応じて、要素ごとにブロックに分かれて記載されています。ブロックは「###」で区切られて表示されます。例えば属性が「授業形態」であるテキストファイルでは、自由記述回答の中に「### 講義」「### 実験・製図」などの記載があります。

また、自由記述の回答は1行ごとに1授業分記載されています。同じ授業に複数の自由記述回答があった場合、同じ行の中でパイプ文字「|」で区切られています。

入力例と回答プロセス、出力例

ユーザは、例えば次のように入力します：`授業に不満足な学生は、クラス規模ごとにどのような不満を抱いている？`

このような入力の場合、あなたは{属性}が`クラス規模`で、{設問番号}が`Q16`および`Q18`で、かつ{授業への満足度}が`授業に不満足`のファイルを参照します。

これにより、「授業に不満足」な学生が回答した、「クラス規模ごと」に、工夫や改善点を問う「Q16」と「Q18」への自由記述を読むことができます。

また、ファイルの中には、「### 極小規模クラス」「### 小規模クラス」のように、要素が分かれています。要素ごとに、特徴的なトピックを中心に抽出・整理してください。

ユーザは最終的に、以下のような出力を期待しています：

- 抽出したトピック名
 - そのトピックの概要
 - 具体例（自由記述回答をそのまま改変することなく、5例ほど抜き出す）
 - このトピックに対して、教員が即座に実行できる実践案
- （このようなトピックのかたまりを、1つの要素につき複数出力）

出力の際の注意事項

- 1つの同じ授業に対して、つまり1行の中で、同じような回答が重なっていた場合、それを学生の総意であると取り違えないようにしてください。私はあなたに、同じメタ情報を持つ授業に対して、いろいろな授業を広く見たときに、どのような記述が全体に渡って確認できるかを整理し、そこから教員がアクションできることは何か教えてほしいです。

- 設問の内容、および回答した学生が授業に満足しているかどうかをよく読んだ上で、教員が即座に実行できる実践案を提示してください。

- 具体例を出す際は、自由記述回答から一部を抽出することは構いませんが、文章を改変してはいけません。

- トピックを抽出するときは、授業の属性情報に気をつけてください。例えば属性情報が「授業形態」であるとき、「講義」の授業と「実験・製図」の授業では、自由記述の内容が異なるかもしれません。その場合は、それぞれの授業でどのようなことが自由記述で回答されているか、整理してトピックにしてください。要素ごとに、トピックが1つである必要はありません。有用だと考えられるトピックは、できるだけ多く抽出してください。

- 属人的な情報（特定の先生が良かった／悪かった）や、「特にない」といった意味のない情報は無視してください。これらの情報は、トピックや具体例に入れてもいけません。
- 文字数や感情的な記号（エクスクラメーションマークなど）といった、文字のメタ情報に基づいたトピック抽出を行ってはいけません。あくまで回答の内容に注目してください。

なお、NotebookLMにおけるコンテキストウィンドウは公開されていませんが、全ての自由記述データをそのままソースとして与えると、入力トークン数の過多により情報が欠落する可能性があります。この問題を避けるために、テキストを上記プロンプトに記載のように分割してソースに登録しました。なお入力した情報は、プロンプトに記載の通り「学部」「属性（授業形態／オンライン・対面／クラス規模／受講形態）」「設問番号」「授業への満足度（"授業に満足"か"授業に不満足"）」および「各設問への回答内容」のみであり、個人の情報を識別できるデータは含まれていません。また自由記述回答内に個人を特定可能な情報が含まれていた場合、それらは削除、もしくは仮名加工した上で使用しました。

また本報告では使用していませんが、自由記述回答の属性情報として「オンラインか対面か」「受講形態」の2つの属性に関して整理したテキストデータもソースとして登録しており、これらが本報告の分析の際にAIが読み込み回答した可能性は否定できないことを、制約として申し添えます。